

令和5年豊能町議会 第2回
スマートシティ特別委員会

会 議 録

令和5年7月19日（水）

豊 能 町 議 会

令和5年豊能町議会 第2回
スマートシティ特別委員会

年 月 日 令和5年7月19日（水）
場 所 豊能町役場 大会議室
出席委員 6名
秋元美智子 寺脇 直子 池田 忠史
永谷 幸弘 永並 啓 川上 勲
欠席委員 なし
委員外出席 管野英美子（議長）

本委員会に説明のため出席した者は、次のとおりである。

町 長	上浦 登	副 町 長	高木 仁
政策監兼住民部長	大西 隆樹	総 務 部 長	入江 太志
総 務 部 理 事	松本真由美	保健福祉部長	小森 進
保健福祉部理事兼健康増進課長	浅海 毅	都市建設部長	坂田 朗夫
都市建設部理事	浄住 修	こども未来部長	仙波英太郎
まちづくり創造課長	田中 久志	都市計画課長	田中 克生
教育総務課長	吉澤 亘		

本委員会に職務のため出席した者は、次のとおりである。

議会事務局長 浜本 正義 書 記 平田 旬

本日の会議に付された案件は次のとおりである。

1. 令和5年度スマートシティ事業について

2. その他

午前9時30分 開会

○委員長（秋元美智子君）

おはようございます。

非常に災害級の暑さが続いているということで、職員の方々もいろんな所へお出かけになることも多いと思います。十分に暑さ対策して、お仕事に励んでいただきたいと思いますので、体に気を付けてお願いいたします。

議員の皆さまも本日は、ご出席ありがとうございます。

では、座らせていただいて、進めたいと思います。

ただ今の出席委員は、6名であります。定足数に達しておりますので、第2回目のスマートシティ特別委員会を開会いたします。

委員会の開会に当たりまして、町長より御挨拶がございます。

はい、上浦町長。

○町長（上浦 登君）

はい、おはようございます。

本日お忙しい中、御参集いただきまして誠にありがとうございます。

先ほど、委員長のお話にもありましたように、第2回目ということでございますスマートシティ特別委員会、本日はですね令和5年度の事業の概要について、まずは御説明をさせていただき予定としてございます。

議員の皆様の御意見につきましてもですね、しっかりと受け止めさせていただきながら、進めてまいりたいと考えておりますので、引き続きの御理解、御協力をお願い申し上げます。開会に当たりましての御挨拶とさせていただきます。

本日は何とぞよろしくお願い申し上げます。

す。

○委員長（秋元美智子君）

ありがとうございます。

では、次第に続いていきたいと思っております。まず一番目の令和5年度スマートシティの事業についてです。

町長お話ありましたように、令和5年度、今年度についてのまず資料、皆さんのところに届いてると思っておりますが、確認していただいておりますでしょうか。

大丈夫ですか。

（「はい」との声あり）

○委員長（秋元美智子君）

わかりました。

これ先日、議員総会の中で、委員のほうからいろいろな意見をいただきまして、結果的に企業の名前ですとか、もうちょっと詳しい内訳ということで、担当の方々が作成してくださったものです。

これに基づいて、また今回、いろんな質問もいただきたいと思っておりますので、まずそこから進めていきたいと思っておりますので、御意見、疑問、そういったことございましたらよろしく願いいたします。

ごめんなさいね。説明いただかないと無理ですね。ごめんなさい。

ちょっと先に説明のほどお願いいたします。

はい。田中課長かな。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

おはようございます。まちづくり創造課の田中です。

それでは、令和5年度のスマートシティ事業の実施計画（案）につきまして、御説明をさせていただきます。

資料なんですけども、Side Books内の、スマートシティ特別委員会のフォルダに格納しております。

2種類ございまして、R5スマートシテ

イ事業実施計画（案）と、R4デジ田事業業務委託契約書の2種類でございます。

この業務委託契約書につきましては、6月12日のスマートシティ特別委員会のほうで、御意見をいただいたものでございまして、本日説明としましては省略をさせていただきます。

実施計画の案につきましては、7月12日の議員総会でお示ししました資料に議員の皆様からいただいた御意見を踏まえまして、修正を加えたものということでございます。

この修正箇所なんですけれども、まずサービスごとにですね、関連する企業を追記いたしました。

この企業といいますのは、主にこのサービスとか、機器を提供、運用する企業というふうに捉えていただいたらと思うんですけれども、サービスによっては1社だけではなくて、複数社が関連しているサービスもございます。それぞれ関連企業を掲載しております。

また事業費サービスごとの事業費の内訳を追記いたしました。

こちらもあくまで予算ベースということになるんですけれども、大きな項目としてこういう内訳ですと、いうふうなところで御理解いただけたらというふうに考えております。

またデータ連携の有無について、追記をいたしました。

このデータ連携といいますのは、システムとか、アプリ、それぞれのサービスの垣根を越えてですね、データを共有したりですとか活用したりということ指すんですけれども、それぞれサービスのシステムがスマートシティの土台である、データ連携基盤につながっているか否かというのを示しておるといってございまして、○というふうに書かれておりますのが、連携がさ

れているサービス、それからデジタル教育のところ△というふうになっておるんですけども、これは一部連携、一部連携されていないという意味でございます。

それではですね、改めまして実施計画の案につきまして、御説明をさせていただきます。

前回の説明と重複するところもございすけれども、御了承いただきたいと思っております。

令和5年度の進め方、基本的な考え方としましては、新たなサービスは実施せず、昨年度に実施した、デジタル田園都市国家構想推進交付金事業の実施計画におけます八つのサービスのK P I 検証、事業の進捗管理を行うためのサービス継続というのを基本に考えております。

このサービスの中身につきましては、これまでもいろいろ全員協議会のほうでも、昨年の実績につきまして御説明をさせていただいた際に、様々な御意見、議員の皆様よりいただいておりますので、それらを踏まえまして実績ですとか、ニーズが少なかったもの、これにつきまして今一度内容を検証しまして、今回限られた予算の中で、ある程度強弱といいますか、つけながら、サービスを再検討したというものでございます。

この検証に係る経費につきましては、町費の負担が必要ということで、今年度につきましては3千万円というところを上限としまして、今、C S P F C と協議調整をしておるといってございまして。

それでは、モビリティから順に御説明いたします。

まずモビリティサービスなんですけれども、昨年度、西地区におきまして2月に1か月間のA I オンデマンド交通の実証実験運行を行ったと。今年度につきましても引き続き2回目の実証実験運行を予定しておると

いうところがございます。

昨年度との違いとしまして、1か月間の運行だったものが、今年度は4か月間の運行を想定しておるといふことと、運賃につきまして無償の運行から有償での運行実験となると、これが昨年度の違いといふこととでございます。

関連企業としましてはSWAT Mobility Japanといふところになりまして、こちらがシステム、アプリの運用を行うといふこととでございます。

経費につきましては、1,095万円といふことで、内訳としまして、システムの運用経費、それから、道路ネットワークデータライセンス料、それから最適化分析と、こういったものにかかってくる経費がありまして、金額につきましてはこの記載のとおりとなっております。

こちらはサービス、KPIの検証項目としましては、予約アプリのダウンロード数ですとか、利用者数、これらの数値をとる必要がございますので、AIオンデマンド交通を走らせながら、こういったデータをとっていくといふこととでございます。

次にデジタル行政サービスなんですけども、こちらのサービスは基本的に昨年度構築したサービスを継続して運用していくと、システムを継続して運営していくといふこととでございます。

システムにつきましては、記載にありますとおり五つのシステムが、ございまして、こちらを引き続き運用していくといふことです。

関連企業、複数社でございます。

まずとよのんコンシェルジュの運用が一番上に書いてますOZ1になります。

それから自治体ダッシュボードと、RPAシステムの運用が電通国際情報サービスになります。

予約サービスの運用につきましては、大阪エヌデーエスになります。

手続ナビの運用が、一番最後に書いてますアスコエパートナーズといふふうにそれぞれシステムによって会社が分かれているといふことになっております。

システムを継続するための運用経費としまして、949万円とになっておりまして、内訳には書いてますけども、もうこれはあくまでもシステムのランニング経費、運用コストといふことで内訳のほうも書かせていただいております。

次にヘルスケアのサービスなんですけども、こちら昨年度に配布しましたウェアラブルの機器、こちらは継続的に活用していくといふことと、ウェアラブル機器の配布ですね、残数配布、それから、機器を活用しました健康講座とか、測定会を開催していく、こちらを10回程度想定してるんですけども、それと既に設置しているテレビプッシュの継続運用といふことになっております。

関連企業としましては、ウェアラブル機器の関連が三つ目に書いてますY4.comといふところになります。

健康講座とか、測定会、こういったものについては、I&H、それから、MOVE TEX、上から二つですね、になっておりまして、テレビプッシュ関連が一番下のイツコムといふところが、それぞれ連携する企業といふことになっております。

経費につきましては、473万円を見込んでおりまして、内訳につきましては主にこれもアプリのシステムサーバーの運用経費それからテレビプッシュのシステムの運用経費といふふうになっておりまして、金額は記載のとおりでございます。

こちらのKPIにつきましては、ウェアラブル機器を活用した平均歩数の増加数で

あつたりですとか、通いの場の健康講座、測定会の参加者数、こういったものについていくということです。

それから次にデジタル教育のサービスなんですけども、3回程度スマホ教室の開催と4回程度のよろず相談所の開設を想定しているというところです。

昨年度は、よろず相談所は週に2回開催しておったんですけども、今年度はですね、スマホ教室の開催と連動した形で、回数について若干圧縮した形で進めていきたいというふうに考えております。

関連企業としまして、スマホ教室につきましては、とよのていねいとNTTコミュニケーションズ、NTTComと書いてある部分になりまして、よろず相談所はとよのていねいと連携していく予定にしております。

経費につきましては185万円ということで、こちらはあくまでも相談所と教室の運営にかかってくる経費、1回当たり24万円ということになっております。

KPIにつきましては、デジタルデバイドの解消が図れたかどうかというところを見ていくということで、スマホ教室を開催する、それにつきましてコンシェルジュからの予約をとっていくといったところになっております。

次にインフラ公園なんですけども、昨年度整備をいたしました、光風台2丁目公園におきまして、来園者のデータ蓄積を行うということを考えております。

関連企業としましては、こちらシステム運用です。ハードは、一切ございませんので、システムの運用としまして、Andecoを想定しております。

経費としましては94万円ということで、内訳につきましては、通信費、それから、カメラシステムの運用、それから、ほかの

スマートロックとかそういった管理システムがあるんですけども、そういったところの保守というところになっております。

KPIにつきましては、公園の平均利用者数であつたり、住民の満足度といったものをとっていくというところがございます。

次に子育てサービスにつきましては、60人程度想定したオンライン経理スクールの運営、それから、コンシェルジュ内に実装する子育てタウンという、子育てに特化したサイトがございますけども、そちらのシステム運用を想定しております。

関連企業としまして、この経理スクールのほうがCue1というところ、それから子育てタウンが、アスコエパートナーズになっております。

経費としましても、80万円ということなんですけども、こちらは子育てタウンのサイトの運用経費となっております。

KPIにつきましては、経理スクールのプログラムの提供ということで、利用者数等のデータをとらないといけないということなんですが、運用経費については、費用をかけずに行う予定にしております。

次に見守りサービスなんですけども、こちら既に配布、設置しておりますタグとか受信機の継続活用、それから、残数配布、ルーターの残数設置というところを想定しております。

関連企業としましては、ottaですね、ottaのシステムを使う予定にしております。

経費といたしまして、79万円ということなんですけども、こちらアプリのサーバーの運用経費ということになっております。

KPIとしましては、小学生ですとか、75歳以上の方への見守りサービスの利用者数、こういったものについていくというところでデータ利活用を考えておるとい

ろです。

最後に地域経済のサービスなんですけども、ヘルスケアのサービスとの連携によりますポイントの還元システムの運用を予定しております。

こちら関連企業としましては、ヘルスケアのサービスと連携するということで、Y 4 . c o mを想定しております。

K P I 検証項目につきましては、ポイント運用を行うということになっておりまして、利用者数など、取らないといけないということなんですけど、今回はとよのんウォレットは使わずにですね、使わない形での運用を考えておるといところで。

経費としまして 45 万円、これはポイントの原資となるもので、1,500 ポイントぐらいを考えておりまして、300 人程度の運用になるのではないかといいことでございます。

以上ですね、各サービスについて御説明をさせていただきましたが、また内容等につきまして御意見をちょうだいしたいというふうに考えておりますので、その上で、関連予算のですね、補正予算をまた上程をさせていただきますというふうに考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

説明は以上です。

○委員長（秋元美智子君）

はい、ありがとうございます。

今、一応説明いただきましたけれども、何か、このあたりどうなってるのとか、御質問ございましたら、手を挙げてお願ひいたします。

なければ次進みますが。

はい、永谷委員。

○委員（永谷幸弘君）

おはようございます。永谷です。

見守りのほうなんですけど、残りのタグを配布ということで、K P I 検証のための必要な項目のほうで、小学生または 75 歳以

上の見守りサービスとなってるんですけど、具体的に、小学生何々、高齢者の方が何々ということで、具体的な配布方法、数ですね。それと地域があると思うんですけど、どの辺の地域にこれを配布される予定なのか。検証ですから、ある程度のことは、推測はできるんですけども、この点についてお願いします。

○委員長（秋元美智子君）

はい、田中課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい、まちづくり創造課の田中です。

見守りタグの配布のまず数なんですけども、タグの残数といたしまして 249 個、それからルーターにつきましては、73 個ということが残数として残っておるといところでございますので、まずこの数の配布を目指してやっていくといところでございます。

配布方法につきましては、現在のところまだ未定といところでございますけども、当然、先ほど議員のほうからも御意見いただきましたとおり、小学校であったりとか、高齢者であったりとか、そういったところが対象になってくるかと思っておりますので、まずは役場の中でのですね、庁内の関係部署と調整をまずやっていくといところを考慮しております。

できるだけ早い時期に配布をしたいというふうに思っておりますけども、当然受信機との兼ね合いもございますので、まずは受信機の設置場所をですね、確定させた上でどういったエリアに絞っていくのかといところも踏まえて、検討していきたいというふうに考えております。

○委員長（秋元美智子君）

はい、永谷委員。

○委員（永谷幸弘君）

未定ということはよくわかりました。

後これ、内部的な話ですけども、調整、前回ちょっと言ったんですけども、連携です、ね、庁内の連携、教育委員会云々ということをお話しましたが、その辺をしっかりとやっていただきたいと。既存の教育委員会のね、見守りのやつもありますし、それとの連携は、資料の中にちょこっと書いてましたけど、実際はそのとおりになるのかどうか、その点が一番大事なかなと思いますので、しっかりと内部の連携をよろしくお願いします。

取りあえず終わります。

○委員長（秋元美智子君）

今の見守りの件で、ほかに御質問ありましたら。

はい、永並委員。

○委員（永並 啓君）

全ての事業で聞くことになると思うんですけど、これを2年間、トータル3年間のスマートシティの補助金絡みの事業が終わった後に、継続していく計画があるのかどうか。

というのは、配布しました。でも2年後はやめます。だと混乱させるだけなんです。

そのためには、今の段階で、見守る方法としてどういったものがあるのかっていう、今まで、小学校にはミマモルメっていうものがあるし、ミマモルメを使った認知症、高齢者の見守りということも実際に実施してます。

そういったものの検証はされて、それでその上に、何かこの今回のタグつきのやつを配るっていうところの全体的な計画があるのかどうか、そこら辺をまず教えてもらえますか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、田中課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい、まちづくり創造課の田中です。

このスマートシティ事業の2年間の検証後の、今後の展開というところがございますけども、大きな考え方というところにはなるかと思うんですけども、まずこの令和4年度にやりましたデジ田事業、令和5年度、令和6年度でまず2年間を検証していくと。効果検証を続けていく中でですね、持続的な事業化というものができるのかどうか、そういった方策についてもこの2年間で探っていきたいというような、まず大きな考え方がございます。

この事業を進めていくということで、町としてどういった町に変わっていくのかというものを示していかないといけないというふうには考えておるんですけども、2年間やっていくことが無駄にならないような取組みとしたいというふうにもまず考えております。

令和7年度以降につきましては、この2年間の検証を踏まえまして、運用面ですとか、財政面ですとか、こういった両方からですね、持続可能で効率的な事業になるのかどうかのを確認しながらやっていきたいというふうには考えておりますので、まずはそういった大きなその目指す姿というところではそういったところになるのかなというふうには考えております。

○委員長（秋元美智子君）

はい、永並委員。

○委員（永並 啓君）

うん。だから質問にちゃんと答えてください。

今の段階で、それが見えてたらいいんですよ。2年間継続しても。まず一点目、コストの問題なんていうのは、今わかりますよねある程度。これくらいかかるから、これくらいの人に使ってもらったら、これくらいの効果が出るだろうとか、そういった

のはわかってるわかるはずだと思うんですよ。

それで、もっと既にミマホルメっていうものが使われている。他市町村では、先ほども言ったように認知症対策、認知症の人が山の中に入ったりして、亡くなっていくのを防止するような対策でも使われている、そういった、僕は検証をされたのか聞いた記憶がないんですよ。

そもそもタグの、こういうふうには3月のドタバタで切りかわってたりっていうのを聞くと、どこでそういうことをされた上で、豊能町にとって本当にどの事業を入れたほうが見守りとして効果があるのかっていう計画が全く見えてないから、聞きたいだけなんですね。それが見えてない。今からこれからやってみて、結果がこうでした、じゃあやみましょうっていうのは、多分ほとんどしない。2年後を見てもそういった中途半端な気持ちでやるとなかなかうまくいかないと思うんで、そこら辺あれば教えてください。それと今、課長がおっしゃられた、2年間の実績を見て、実績見るんだったらやっぱり、1個でやらないと。令和4年度の実績は1なんだから。

だってもう既に今年度配ったらその実績見るのは、1年しか見れませんよね。

そういったところで国の補助金絡みのところで、実際は2年間の検証できませんけど、引き続きさらに1年延ばすんですか。

そこら辺の兼ね合いはどうなっているのかお聞かせいただけますか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、松本理事。

○総務部理事（松本真由美君）

はい、松本でございます。

何を指して進めていくのかという御質問を最初にいただいたと思うんですけども、これからの庁内で連携していくって

うとを田中課長が申し上げました。

そのときに進めていく中の一つとしてはですね、やはり総合まちづくり計画ですね。

この計画の中に載ってるもので、出口として施策として進めていけるといえるものがあれば、K P I等をですね検証しながら出口に向かっては、そこのところで、計画の中にあるもので、政策として達成していけるものがあればですね、それを出口として目指して庁内で連携しながら進めていく、そういうものではないかというふうに思っております。

1個で検証するべきではないかという御質問を今いただいたんですけども、去年度は大変申し訳ございません一つしか配れませんでした。

でも、去年度の250個ですね、これを配るとというのが、4年度のスタートのときに250個を配るところがあったんですけども、結果的に一つしか配れなかった、250には行かなかった、未達という状態で、去年度の達成は未達となっています。

K P Iは、この数字を目標に進めていきますので、やらないという方法がございませんので、やり続けて250個に向かって配るということをしていきますが、そこに、数がですね、いかなかったらまた未達というK P Iになる。

国から言われているのは、やらないということではできないであろう、K P Iを叶えるためにやっていく、けども未達であったという報告をいただいている状態ですというふうに、今、5月の報告会のときには、言われておりますので、250個を配るべき進め方っていうのを今年度はしていけないといけないのではないかとというふうに私たちは思っております。

以上です。

○委員長（秋元美智子君）

永並委員。

○委員（永並 啓君）

多分国のほうも柔軟だと思いますよ。

だってもともとは、最初に令和4年度にやった事業は2年間かけて検証。でも今ののように、未達だったら続けてやってきてください。そしたらその検証というのは一年しかできないわけですよ。もし今年度に249個配れたのであれば。そういうふうに柔軟性があるんで、もっと僕は国との交渉の方法というものはいろいろとあるのかなあと。そこの部分において、2年度KPIの検証が終わった後も、豊能町の中で、イメージする見守りの事業というものが、できているのであれば続ける価値はあるけども、もし、コスト面の比較とか今の段階でできていないのであればそれをつくってから出していかないと、住民の皆さんを巻き込んで配りました。

でも、いや微妙なあれだったからやめますなんていうただ混乱させるだけなんですよ。

僕は一つの事業でやるって言ってるんじゃないかって、一つのまず選択肢として今既に使われているミマモルメっていうものが、例えば無料で全員に配るという方法もあったんじゃないかなとか。

そしてそれを使って、いろいろ豊能町の場合は、大都市と違って、例えば何か犯罪に巻き込まれても逃げ口って少ないんですよ。もう一の鳥居に行くところ、グリーンロード通るところ、何か所かのところしかない。

そこにセンサーを例えば置いてそこを通れば知らせるようなことをすれば、最悪の事態というものは防げるのかなと。

そういった見守りの町の地域性、犯罪っていうんだと地域性ってすごい重要になってくるんで、地域性に応じた見守りの計画っていうものをつくった上で出すならいい

んですけど、何か今ミマモルメも一部でやっています。一部でこういうのもあったから、3月にドタバタですけど、最初はミマモルメで行ってききましたけど、3月にタグつきに変わりました。そっちもやってみます。

明らかに中途半端にどれもがなくなっていくような感じがするんで、それはもうちょっと慎重に、豊能町として町主導ですよ、企業のやりたいことじゃなくて、町として豊能町の立地に合った見守り体制っていうものは、どういったものが適してるのかっていうものをつくってから、出してもいいのかなという感じがするんですけど、それはいかがですか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、松本理事。

○総務部理事（松本真由美君）

進め方については、去年度は至ってなかったというところは大変反省しております。

今年度の進め方、今いただいています御意見ですね、そのとおりでなと思っております。

以前にもお話ししてたと思うんですけども、スマシ特別委員会というものができたということは、今後ですね、今回はこのKPIを叶えていくための、今年度の予算をお認めいただきたいというお話をさせていただいてるわけですが、その後進めていく内容についてですね、こちらについても、以前から御意見何度もいただいております一つ一つですね、スマシ特別委員会の中でやり方、方法等ですね、お示した上で御意見いただきながら進めていきますということを前に、私、答えたことあると思うんですけど、その形でやっていくっていう気持ちは変わっておりませんので、その中では永並委員にいただいた御意見ですとか、いろいろなものをですね、形としてつくり上げたものを次の段階では、お見せをする。

また御意見いただく、こういう形で進めていくというふうに思っております。

お願いいたします。

○委員長（秋元美智子君）

ほかにこの件でございますか。今の件はいいですね。

じゃ、ほかの件で。

はい、川上委員。

○委員（川上 勲君）

おはようございます。

まずは、委員長にお伺いしたいんですけども、この特別委員会ができた経緯は、寄附金いうか、どない言うんかな、1億9,500万の寄附金が入らへんと。それが問題になって、この特別委員会ができたわけであってやね。

○委員長（秋元美智子君）

違います。

○委員（川上 勲君）

違うの。

ほんだらあれはもう流れてもたん。

○委員長（秋元美智子君）

いえ違います。

ですから、議題は二つ持ってます、この会は今。

○委員（川上 勲君）

いやこの議題は、どうせ予算提案しまんのやろ。

提案しまんねやろ。ほんだら総務建設常任委員会で審議する内容違いまんのんか。特別委員会はこんな審査する必要おまへんで。

○委員長（秋元美智子君）

審査ではないです。

説明させていただきます。

○委員（川上 勲君）

ほんだらまた総務常任委員会に付託すんの、せえへんの。本会議で直接すんの。

○委員長（秋元美智子君）

私たち、この会は付託されてるわけじゃないんですね。

説明させていただきます。

スマートシティ事業、スタートしましたね去年。スマートシティ事業が。実際はほとんど議会の知らないところで、いろんなことが進められてきました。ですから時々逆に、住民の方から、実はこういうものを配られてんだけど、これ一体何なんだと。

よくよくそういった言葉を集めていったときに、全部それはスマートシティ事業に関わってることってのはわかりましたんで、これは議会のほうも、このスマートシティ事業は一体何なのか、一つ一つの事業がどのように進められているのか、なぜその事業を選ばれたのかということ、議会としても把握しなくちゃいけないってことで、特別委員会を、去年の12月だったと思います、立ち上げることになりました。

その立ち上げる後に、今度は逆に、ごめんなさい3月か。3月頃に合わせて今度は企業版ふるさと寄附金が入る予定になってましたね最初から。それがどうも入ってこない可能性が出てきて、これはうちの委員会が関係ないところで、議長、副議長が中心になって、前町長にどうなってんのかってお話を聞いてました。

最終的にそれがそのような形、要するに寄附金が入らないままに行ってしまいましたので、ではこれもあわせてスマートシティ特別委員会のほうで対応していきましようということになった。そういう流れです。

○委員（川上 勲君）

特別委員会は、去年の12月にできましたな。

○委員長（秋元美智子君）

3月、ごめんなさい、12月にそういう話が出たんです。

○委員（川上 勲君）

3月にやね、寄付金が入らんいうことで、特別委員会つくって解明しようという内容と違いましたん。

○委員長（秋元美智子君）

その前からです。

○委員（川上 勲君）

違うの。その3億9,000万円のうち、入れんということは、どういうことになってまんの。私、第1回目も出席してないからわからんけど。

それはもう終わりましたん。

○委員長（秋元美智子君）

違います。

それもやります。

○委員（川上 勲君）

いや、それもじゃなしに、それをやらなあかんのじゃないの。

特別委員会でこんな予算の内容なんかね、審査する必要ありませんわ。

○委員長（秋元美智子君）

予算の内容じゃなくて、事業の内容です。

私たちのほうは、事業の内容がどうなっていて、どんな企業が関わっていて、そこにどういうふうな、要するに。

○委員（川上 勲君）

いやほんでね。

もう一点言うたらね、この8項目、私はこの横文字なんか全然わからへんけどね。

また、寄附金入れてない業者と契約してますわね、これ。

それで、この事業の内容を全て把握してまんの、理事者のほうは。今、細々と説明聞いたけども、それちょっとお答え願いたいと思います。

○委員長（秋元美智子君）

今のお話よろしいですか。

この委員会は、二つ持ってます。ですから。二つの役割を持って進められていますので、まずそれを御理解いただいて。

お答え願えますか。

事業わかってますかってことで。

はい、松本理事。

○総務部理事（松本真由美君）

はい、今年度進めていく内容は先ほど田中課長から説明をさせていただきましたとおり、ここでお示ししてないKPIっていうのは40項目ございますので、この40項目が未達にならないように、今年度と来年度は検証していく、そのように思っております。

○委員長（秋元美智子君）

はい、川上委員。

○委員（川上 勲君）

この8項目の内容を全て把握してるんできいて聞いてまんねん。

○委員長（秋元美智子君）

はい、松本理事。

○総務部理事（松本真由美君）

はい、5月の全員協議会で御報告させていただいたというのが、去年度の実績だったということで把握しております。

○委員長（秋元美智子君）

はい、川上委員。

○委員（川上 勲君）

そしたらね、このOZ1の会社ね、これ去年やりましたわ、昨年度。それでOZ1が、寄附金全部寄付してないわけですか。

ということはね、我々建設のほうにはありませんけども、そういう会社とね再度契約することはやね、建設業はあり得んことですか。違いますか。ペナルティをかけるあかんわけや。

全てこれ把握しとったらね、新しいところと契約するのが当たり前や。

それでまたこの契約は、去年の人と契約してますわね。

私はこれもってのほかや思いまっせ。この内容検討するよりも、全て把握してんね

んやったらね、ほかの業者に委託できませんがな。それを委託できませんの。

ほんで、国の補助金かってこれ、同じ業者にせなあかんいうね、事があるんやったら、こういう理由で寄附金が全部入ってないから、この業者外しますという報告したらやね、これはあきまへんといひますか。

その辺が何かこう、疑問に思うんですわ。

この内容を検討する前に。

○委員長（秋元美智子君）

ここ検討じゃなくて、これは検討ではなくて、スマートシティ事業はどんなものを把握するための委員会です。

○委員（川上 勲君）

ほんだらもうOZ1の会社なんか関係ないわけですか。

○委員長（秋元美智子君）

だからそういう疑問も含めて、どうぞ。

はい、副町長お願いします。

○副町長（高木 仁君）

まず、契約なんですけども、これまで予算が成立しておりませんので、今年度の契約についてはまだ結んでないということになります。

今まで取り組んできたのは、C S P F C っていうのが頭になって、その下に、関連企業として、今御説明したSWATとか、OZ1とか、あとY4とかそういう関連企業がそこにぶら下がってる。そこに参画してるというイメージで御確認いただいたら結構かと思ひます。川上委員おしかりをちょうだいする御意見というのは、我々も理解はさしていただくんですが、今回のこの事業につきましては、これはもともとC S P F C ということと契約して、その下に参画している関連企業と一緒にって取り組んできた事業ということでございまして、このスキームをです、5年度、6年度変えられるのかっていうと、そこはなかなか今

C S P F C が構築してきたものを活用して我々やっていくということになってまいりますんで、なかなかその別の企業に変える、あるいは直接この関連企業と契約したらいいじゃないかっていうところが、今まで取り組んできた流れというんですか、そういうところからちょっとそれはできない、難しいのではないかなというふうに理解しておりますので、よろしくお願ひいたします。

○委員長（秋元美智子君）

川上委員。

○委員（川上 勲君）

コンパクトスマートシティパーク事業実施委託業務か、この契約書の一番最後にやね、受注者。

○委員長（秋元美智子君）

ちょっとお待ちくださいね。

あとね、皆さんのほうにちょっと。今見てくださったのは、7月19日の今日の資料の二つ目の資料ですね。ちょっと皆さんに出していただきますのでお待ちください。

委託契約書の件ですね。

○委員（川上 勲君）

この契約書は、今回の3,000万円と関係はありませんの。

○委員長（秋元美智子君）

田中課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい、まちづくり創造課の田中です。

今回お示しさせてもらった委託契約書につきましては、昨年度の令和4年度のデジ田交付金を活用した事業の契約書、約3億9,000万円ということとなっております。

今回この御説明させてもらった資料、令和5年度の実施計画といひますのは、昨年度3億9,000万円ですサービス構築をしたサービスの効果検証を行うために、継続して行わなければならないというところのK P

Iがございまして、それを達成していくための部分について御説明させていただいたというところで、先ほどから委員のほうからも御意見いただいておりますペナルティとかですね、そういったことについては、十分御意見として理解はしておるつもりなんですけども、スマートシティ事業といいますのはデータ連携基盤、これが最も土台といいますか、重要なものになっておりまして、データ連携基盤を使うというところがこの事業の肝というところがございますので、検証を行うに当たっては、CSPFCを外してですね、するということにはできないというこの説明でございます。どうぞよろしく申し上げます。

○委員長（秋元美智子君）

契約の相手先は、あくまでもこの協議会ってことですね。

はい、川上委員。

○委員（川上 勲君）

ほかのおもてに出とる契約者以外のね、企業の名前は出てるけど、それは何もこの中には出てませんわね。

ほんで、必ずそれを継続してしなければならぬというのは、どこで決まってるまんの。

○委員長（秋元美智子君）

御質問の意味わかりますね。

デジ田のほうの補助金の関係だろうと思いますが。

○委員（川上 勲君）

あのね、把握しとったらね、業者変えてもいけまんのちゃいまっか。全ての事業に対して把握しとったら。

○委員長（秋元美智子君）

はい、高木副町長。

○副町長（高木 仁君）

繰り返しになるかもわかりませんが、これ、先ほど担当のほう御説明差し上げまし

たけども、CSPFCというのが、会社が社団法人ですけどそこがありまして、そこにこういう企業が参画してるという形になってますので、直接この例えば、イツコムさんとかというところと契約しようとしても、我々のもとのスキームの成り立ちっていうんですか、そこがCSPFC、一般社団法人コンパクトスマートシティプラットフォーム協議会それがちょっと今、先ほど担当が御説明さしあげてあげましたように、そこがつくったそのシステムを活用してやっていく、KPIをやっていくっていうことになってきますので、そこ外すっていうのはちょっとできないということになっておりますんで、一旦これで、お答えさせていただきました。

○委員長（秋元美智子君）

どうぞ。はい、川上委員。

○委員（川上 勲君）

何とかかんとかいうやつがね、3億9,000万円で、寄附金入ってへんねんやろ。

そんな団体いうか、何というか知らんけどね、そういうところを再度ね、5年度にやね、する必要ありませんわなあ。

全て把握してるんやったら。その辺がどうも不信感買うわけですね。

それはそういう具合にせなあきまへんのか。

○委員長（秋元美智子君）

松本理事。

○総務部理事（松本真由美君）

4年度のですね、実施したところがこのCSPFC協議会と契約を結んでやっている。CSPFC協議会の中にですね、今日お示ししました関連企業が参画して入っている。その中で連携をしながら進めているというところがございますので、一つ一つの企業と進めていくっていうことになりますと、ほかの企業とほかの企業が一緒にや

ってるところもあったりとかして、そのコンサル的取りまとめっていうのも、この事務局がしてますので、一つのピンのところだけをとして私たちがそれを理解してるからやっていただくっていうことは、難しいと思います。

その一つとしてタイプⅡっていうものですね、データ連携基盤というものをつくって、データ連携基盤の上に、いろいろなヘルスですとか、移動ですとかのメニューを載せていくっていうところがありますので、この基盤自体を使わないといけない基盤の上に、ここに書いてある企業が乗って事業を進めているっていうのが、去年度やりましたタイプⅡの事業ですので、それをしないことには検証ができませんので、その一部分のデータ連携しない上の部分だけをやるっていうことが、今回難しいというふうに考えております。

○委員長（秋元美智子君）

はい、川上委員。

○委員（川上 勲君）

ほんだらね、3億9,000なにがしのお金のね、1億3,000なんぼが入ってないのに、4年度の事業は全て終わったんですか。国の補助金かなんかが、入ってきたか知らんけどやね。全部終わったんでっか。

○委員長（秋元美智子君）

どうですか。事業としては、おわってんでしょ。事業としては。

お答えください。

○総務部理事（松本真由美君）

はい、実施報告書を全て国のほうに出しておりますして、デジタル田園都市国家構想推進交付金の全てをいただいたということでございます。

○委員長（秋元美智子君）

はい、川上委員。

○委員（川上 勲君）

ということは、この1億9,000万円プラス1億3,000なんぼ出したわけだな。町が出したんでっか。どこが出したんでっか。

○委員長（秋元美智子君）

町が出してるでしょ。

お答え願います。

○副町長（高木 仁君）

今御質問いただいているのは、3億9,000何がしかの金額の半分が、国の交付金でいただいてまして、残りをここの寄附金で賄うというスキームでございましたが、その残りの半分のうち6,000万円だけが入ってきておりまして、その残りについては、町の持ち出しということになっております。

○委員長（秋元美智子君）

はい、川上委員。

○委員（川上 勲君）

町が1億3,900万か500万か知らんけども、それは町が負担して、3億9,000何万の事業が完成したんでんな。

そうやね。それをまた再びね、同じ業者にさすいうことはね、契約の代表者か知らんけどね。代表者は同じ業者違うの。そやろ。

そんなもんもってのほかやね、この事業自体やめてもうたらええねん。私はそう思います。

○委員長（秋元美智子君）

国のほうからこの事業をやっていることで、補助金かなんか入ってますね。

そのこととあわせて説明していただけますか。この1億3,500万円の、現在の町の負担の状況について、

○副町長（高木 仁君）

ちょっと説明不足で申し訳ございませんでした。

3億9,036万2,000円のうち、半分がもとの計画では、交付金、国のほうからいただく、残りは2分の1が、寄附金で賄う

というこれ予算でございまして、そういう御説明ずっとしてまいりまして、寄附金がそのうち、12月に5,000万円、3月末に1,000万円入ってきたという中でそういう御説明してきたんですけども、今年の4月から5月のこういう場でしたでしょうか、御説明を差上げたのは、さらに、コロナの交付金ということで、町の単費分1億9,000万円にがしの金額の8割は、コロナの交付金を充てれるということで、この事業をやることを前提に国のほうから別に交付金をいただいております。

なので、単費分の8割についてはもう国のほうから措置されているということで、実際の寄附金が入ってこないっていうところは別といたしまして、その町の持ち出しがどうなってるのかって言いますと、2分の1のうちの8割が入ってきておまして、単費で言いますと約4,000万円ぐらいが、町の持ち出しにこの事業全体で申し上げますとなっているという状況でございます。

○委員長（秋元美智子君）

わかりますか。

はい、川上委員。

○委員（川上 勲君）

事業完成せなあかんのはね、それは町持ち出しせなあかんところは、せなあかんわね。

ただしね、4年度でチョンボした業者、代表者をね、5年度も再度やね、契約すること自体がおかしい。私はそう思いまっせ。

だからこの内容を検討する前にね、やっぱりその辺もきちっと、白黒つけてからやっぱりせんとまずいと思いますわ。

例えばね、私はこの8項目のうち7項目は全然わからん。そやけどね、公園事業はわかりますわ。もらった図面とね、現場の状況とね、全然違う状況ですわ。あれが完成した公園であればね、ちょっとおかしいと思う。

だから、ほかのどこにもそういう面が十分あるんちゃうかと思えますわ。ということでね、業者は×やと私は言うてまんねん。

○委員長（秋元美智子君）

契約そのものは協議会としなくちゃいけないけど、その協議会さらに契約する先として、寄附金入れないOZ1ですとか、それから今おっしゃった公園のああいうふうなやり方をした業者なんかは、町としては外してほしいなっていう相手先なんですけど、そういったことはできるのかな。

まずそういう質問かと思えますしてほしいということですね。

川上委員。

○委員（川上 勲君）

付け加えて言うならね、公園を利用した人のデータをとるいうてさっき言いましたわね、ほんだらグラウンドのほうから通り抜けてしまう人はどういう形になりますのん。あの入口何通りもあるからやね、公園を利用せんと、通り抜ける人もいてるしやね、そんなんわかりまんのんかいな。

○委員長（秋元美智子君）

川上委員、ちょっと待ってください。

公園つくった方と、このデータ拾うところ同じ会社ですか。そこからの問題があるんだけど。

はい、どうぞ。坂田部長お願いします。

○都市建設部長（坂田朗夫君）

はい。都市建設部、坂田です。

おはようございます。

まず、公園のほうを作った会社は、頭はAndecoさんで、今回の企業さんと同じです。5年の分ですわ。

先ほど川上委員のほうから、公園の利用者の関係どうやって、グラウンドのほうをカウントするんだって話だったんですが、前回も同じような御質問がありまして、御説明させていただいたんですが、今回のカ

ウントする場所は、去年度に整備した自治会館からですね、グラウンドまでの間が去年度の整備範囲ですので、そちらを利用した数をカウントするというのが、もともとのK P I、目標の値というところですので、そこに入ってくるには、計3か所あります。

一つはグラウンドのほうから入ってくる。

そちらのほうはカメラがそっちのほうを向いていると。

それからもう一つは歩道のほうから真ん中あたりですけども、人工芝の広場のほうに向かって入っていく通路みたいのがあります。そちらのほうもカメラがついてるそれからもう1か所が、光風台の自治会館のほうから入ってくる場所があります。

そちらのほうは駐車場を監視するという意味で、カメラを設置してますので、計3か所、そちらのほうを、A Iカメラといいまして、今、人をカウントするような学習を今さしてる最中なんですけども、3か所のカメラを使って、利用者の数をカウントしていくというところでございます。

以上です。

○委員長（秋元美智子君）

はい、川上委員。

○委員（川上 勲君）

カウントできるのかって聞いてんねん。

○委員長（秋元美智子君）

はい、坂田部長。

○都市建設部長（坂田朗夫君）

都市建設部、坂田です。

はい、カウントできます。

だから今学習させておるのは、その三つのカメラを用いて、一人の方が、例えば光風台の自治会館から入ってきました。そこでカメラが1台とらえました。次に、真ん中ほどにあるカメラ、それからグラウンドのほうのカメラが行き来ずっとしてます。

それをカメラごとにカウント1、1、1

としてしまうと、一日の利用者がもうぐちゃぐちゃになってしまいますので、それを今学習させてまして、それを1という形でカウントできるような形で今学習させてるところです。

○委員長（秋元美智子君）

はい、川上委員。

この公園の質問ですか、それともお金の質問ですか。そっちはもういいですか。

じゃあ元に戻りますね、スマートシティ事業の中身で、だから公園の質問ですからね。確認してるだけです。

どうぞ、川上委員。

○委員（川上 勲君）

それで1でカウントすんねんやろ。

どういうことで1でカウントするの。おかしいやん。

光風台の自治会館からグラウンドまで通り抜けが、1、1、1で3やけど、1として勘定すんねんやろ。そんなん公園利用してへんやん、公園を通路として利用しただけやん。

○委員長（秋元美智子君）

はい、坂田部長。

○都市建設部長（坂田朗夫君）

はい。都市建設部、坂田です。

そこを通るということは、散歩なり、例えば、犬の散歩するなり、普通に歩くという意味でも公園を利用するというので、一人という形でカウントすることで考えております。

○委員長（秋元美智子君）

はい、川上委員。

○委員（川上 勲君）

なんでえな。あの自治会館にみんな車置いてな、グラウンド利用すんのよ。通り抜けするに決まってるがな。遠回りみたいなもんせえへんがな。突き抜けできるんだから。こなんで公園利用してとなんの。そんなお

かしいことあるかいな。そやろ。

ほんで、もっと聞くけどね、今の通路の1、2、3の2のところの歩道から入るとこ、あそこにパイプ埋まってますわな。

電気の線通すパイプが。あれ利用してまんのん。あそこに何か、横文字のやつをするように平面図もうたけどね、何も機械入ってませんがな。

だから、初めの図面とやね、できあがり全然違うって言うてんねん。せやからあかんいうてんねん。ほかのともそんなあるんちゃうかと言うてるわけ。わかりまっか。

○委員長（秋元美智子君）

まず、完成してんのかな。一応ね完成してると聞いてますけども、今の川上議員の質問、いかがでしょう。

○都市建設部長（坂田朗夫君）

はい。都市建設部、坂田です。

川上委員がおっしゃってる図面ですね、お渡ししたのは、8月ぐらいに作成した当初の計画の図面をお渡ししておると思いません。細かい平面図ですね。

で、それを受けて、9月1日か8月末に、CS PFCさんと、豊能町とが契約を交わしました。その契約が今、お示してる契約書でございます。

そのあと、12月、1月にイベントをやって、その後もごそごそとやっておりましたけど、3月末には工事のほう終わりましたので、その終わる前に検査をやっています。

その検査やる前には、委員おっしゃるとおり、内容が変わっておりますので、町のほうで、業者さんと協議しながらですね、工事でも一緒なんですけども、もう一度図面を書換えて、書き換えるか変更して、それでもう一度試算というか、設計をやりまして、金額も変えて、今回の場合はプラマイゼロにしておりますけども、それを元に

変更した図面を元に検査して、一応号格という形になっております。

○議長（管野英美子君）

川上委員。

○委員（川上 勲君）

仕上がった後でね、図面変更のはもつてのほかやな。

変更するんやったらね、着工する前に、こういうふうに変えますって変えなあかんのちゃうの。それはもう基本中の基本や。

そやろ。これまだ、石はそこら辺ほったらかしやしやね、引き抜いたあれなんかほったらかしやから、それがまた根が張ってやね、枝出とるわ。

あれで検査終わった思ったら大間違いや。検査いうのはね、現在のはね、写真や納品書やら全部、町が把握してんまんのん。恐らく知らん思うわ。

そんなもんで検査どないして、しまんねんな。むちゃくちゃやろ。

そやから今回この事業は、こんな予算上げんと止めとけ言うとるわけや。

ほかにもね、これはもうよくわからんから、抜けてるとこあると思うわ。

公園がそんなんやから。そやからこの事業自体をやめといたほうがいいいうてんねん。

○委員長（秋元美智子君）

この委員会の役目は、さっき質問してましたけど、予算がどうのこうのとかもちろんあれですけど、そういうことはないことはわかっていただけた。特別委員会をつくるかどうか議会で決めたことですので、申し訳ございませんが、戻すことはできませんので、御理解してください。

暫時休憩いたします。

（午前10時22分 休憩）

（午前10時32分 再開）

○委員長（秋元美智子君）

では休憩前に引き続き、再開いたしたい
と思います。

ほか、この実施計画について、御意見ご
ざいましたらお願いいたします。

御意見なり、疑問なり、質問なり。

どうぞ議長。

○議長（管野英美子君）

管野です。

デジタル教育のスマホ教室で、一回 24 万
円っていうのはどうなのかっていうのと、
先ほどの、もう一回公園すいません。

○委員長（秋元美智子君）

まず、公園にしてください。

○議長（管野英美子君）

そしたら、毎朝新光風台の子は結構吉中
まで遠いので、斜めに通っていく子がいる
んですけど、それはカウントされるんです
か、うまく除かれるんですか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、坂田部長。

○都市建設部長（坂田朗夫君）

はい。都市建設部、坂田です。

このK P I って、整備する前も、カウ
ントという形でやっておりまして、だから日常
的に整備前と整備後が一緒であれば、カウ
ント当初、日当たり 4、5 人ぐらいのカウ
ントで考えてたんですが、プラス整理されて、
最終的には二、三十人増えるという形のK
P I になっているんですけども、ですので整
備前と整備後で、その子たちが通ってお
るのであれば、それはそれですとカウント
しても問題ないのかなとこっちで考えてお
ります。

○委員長（秋元美智子君）

はい、議長。

○議長（管野英美子君）

令和 5 年はいいですけど、令和 6 年度今
度東ときわ台のほうからごそっと来るん
ですけど、それをまた変わってくるんじゃな

いんですか。

○委員長（秋元美智子君）

状況がね。

光風台小学校に通うことになりますから、
大体、対象人数が増えますよという質問で
すが。

はい、坂田部長。

○都市建設部長（坂田朗夫君）

はい。都市計画部、坂田です。

一応公園の時間帯がもし決まっておる
のであれば、そのカメラでのカウントを削
除すればいいだけかなと思ってますので。

以上です。

○委員長（秋元美智子君）

そういう細かい設定はまだなんですね。
まだね予算も通ってないしね。

はい、永並委員。

○委員（永並 啓君）

その細かい設定を言い出すと、多分、こ
れからもいろんな事象によってってなる
んで、なかなか分析にはそぐわないのかな
と思うんですけど、1 点聞きたいのは公園に
関して、今回、K P I の絡みで、人流分析
等がいるのかなと思ってるんですけど、こ
れが終わった後っていうのはどういった維
持費、例えばそこで公園の中に入ったらW
i - F i が使えるよだけでいいのか、それ
とも継続的に何らかの人流分析っていう
ものをしていくのか。終わった後はどれく
らいのコストがかかるような試算をしてお
られますか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、坂田部長。

○都市建設部長（坂田朗夫君）

はい。都市建設部、坂田です。

もともとこの整備する時の当初の計画時
点で、公園にはちょうどカメラがなかつた
ので、カメラが欲しいねと。これは職員の
ほうからの、企業さんに対しての要望事項

という形で言うてたのと、それから、Wi-Fiはあったほうがいいよねというのがありました。

それを今回踏まえてつくったのが、スマートパークという形ですので、原課としては、Wi-Fiの分と、カメラの分については、そのまま継続していきたいと考えております。

費用のほうですけれども、当初、Andecoさんから聞いている費用については、今ちょっとCSPPCのサーバー費用が、接続費は50万円がちょっとかかっているんですが、それを除いた費用分から、CSPPCの一般管理費みたいなものも、10万円含まれておりますので、それを引いた、ざっと30万円程度ぐらいが、当初、令和7年度以降ですね、かかる費用ということで聞いております。

以上です。

○委員長（秋元美智子君）

毎年30万円ですか。

はい、川上委員。

○委員（川上 勲君）

利用人数を把握するということやね。そういうことやけどね、その利用人数を把握して、将来どういうことにプラスなんの。その利用者数を把握するために、豊能町が6年、7年、8年以降やね。どういう得があんの。

○委員長（秋元美智子君）

はい、松本理事。

○総務部理事（松本真由美君）

もともと、デジタル田園都市国家構想推進交付金ですね、これを使ってするっていうのは地方創生、ずっと進めてきたと思うんですけども、この地方創生、人口が増えるとか、そういう取組に対してデジタルを活用するというの、この交付金の目的です。

なぜ、感知を付けているのかっていう話なんですけれども、デジタルを活用することによって数字が、人がそこに介さずでもカウントができるということで、にぎわいの創生がどれぐらいしていけるかというそのデータを取るというところに目的がありまして、例えばこれを付けずにですね、インフラの公園だけの整備を、去年度お金をかけてしました。今年はカメラつけません、データ取りませんということになると、もともとのデジタル田園都市国家構想推進交付金の目的ということではなくなってしまいうということですので、この2年間については、数値をとらなければいけないと、そういうことになっております。

○委員長（秋元美智子君）

よろしいですか。

はい、議長。

○議長（管野英美子君）

すいません。公園にWi-Fiが繋がったところで、何を目的にされているのか。

例えば、子どもたちが、私ゲームようわかりませんが、ゲームを持ち寄ってあそこでやったら、お金かからへんでとか、そういう目的なのか。私も強く繋がるって言うけども、あそこでじっと動画を見てるわけでもないし、何を目的とされてるんですか。

○委員長（秋元美智子君）

そうね、どんなイメージでにぎわいが生まれる感じなのか、もう一つ説明していただけたら、今の議長の質問とあわせて。

はい、松本理事。

○総務部理事（松本真由美君）

Wi-Fiの設置についてなんですけれども、国から示されているのは、観光ですか、人のにぎわいをつくるときに、Wi-Fiというものをツールとして入れると、人のにぎわいがそこで醸成されていくだろ

うという、そのツールの一つとしてWi-Fiは使っております。

○委員長（秋元美智子君）

実験的なものなのかな。Wi-Fi入れたらただ賑わいが生まれるかという、ある面実験的なことなんです。こうなるだろうとかそういうんじゃない。

よろしいですか。

ほか公園のことについて、質問。

はい、副委員長。

○副委員長（寺脇直子君）

このカメラシステムって出てますけど、さっきのAIカメラっていうのは、普通のカメラとどう違うんでしょう。

○委員長（秋元美智子君）

はい、坂田部長。

○都市建設部長（坂田朗夫君）

はい。都市建設部、坂田です。

すいません、私も詳しくはないんですけども、普通のカメラはただ単にその映像を画像として残すだけなんですけども、そのカメラの中に学習できる機能がついておると。そこで要は人流計測するがためのものなんですけども、堺のほうのところでもそういうカメラでAIを学習しながらカウントするようなシステムがついているところで、今回ちょっとAndecoさんというところが、豊能町のほうでもやっていただいているところなんですけども。

詳しくないんですが、人が一緒に手を繋いで並んでた場合、以前はどうも1としてカウントしてたらしいんですけど、それをカメラでじっと捉えながら、そう動いたりするときに2でカウントするような、何か学習機能を後でまた人間が見ながらですね、AIでは、1としてカウントしてたのを後で、今ちょうど人間も入れながらやってるんですけど、それを2としてカウントするような形で、もう1回学習し直して、人間

が手に入ってですね。見て、それで2としてカウントするような形で、もう1回覚え込まして、次通ったときは、1じゃなくて、2でカウントするとかそういうのを、ずっと継続的に学習、今4か月目入ってますけどさしておるといところで聞いております。

すいません、これ以上ちょっと説明できないので。すいません。

○委員長（秋元美智子君）

はい、永並委員。

○委員（永並 啓君）

今、Andecoさんが、堺でということをおっしゃいましたけど、ちなみに、人数的なものとして堺だとどこへ、相当な人数を対象にして、いろんな効果が出てくるのかなと思うんですけど、豊能町の場合明らかに分析にする母数が少ないと思うんですけど、このレベルでやってるところがあるのか。ほか、そういうAIを使ったシステムを使ってもうちょっと高性能のカメラに独自の判断をさせていくっていうような取組をして、次にどういうのに生かされているのかっていう、ここのAndecoさんの実績みたいなのは、ある程度把握されてるんですか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、坂田部長。

○都市建設部長（坂田朗夫君）

はい。都市建設部、坂田です。

私どもが確認したのは大仙公園だったと思いますけど、堺のほうにある。そちらのほうを関係者でちょっと視察行きて、人工芝広場とかですね、リニューアル後に見に行ったんですけど、そこに飲食店があったりとか、そういったところの、視察行ったときにそういったものも合わせて、確認させていただきただけで、ちょっとそれ以外の実績っていうのは、私どもは存じない

です。

○委員長（秋元美智子君）

はい、永並委員

○委員（永並 啓君）

多分、大仙公園とか僕行ったことあります。すごいでかくて、いろんなところにいるんな施設があるんで、そこに行く人っていうものが全部わかっていくのかなと思うんですけど、さすがにやっぱりねシステム絡み、町というちっちゃいところだと、すごい細かい、移動になるから、なかなか今後の展開というのは皆さん委員の方も聞かれますけど、なかなかこれに関しては難しいところが、全般的に言えることなんですけど、システムを使って何か効率的にとかっていうところが、町にはそぐわない事業、全体的な事業がそうになっていくのかなという印象を受けますね。

○委員長（秋元美智子君）

もういいですか。公園でほかございますか。また、後でも結構です。

何かほかの分野で質問ございましたら。

はい、永谷委員。

○委員（永谷幸弘君）

子育てなんですけど、これ 80 万円の予算上がってまして、結局子育てタウン、コンシェルジュ内で、今回は経理スクールですかね、御案内という形になるんですか。

広報して、その方が例えば興味を持ってこちらへ来られて、詳しい話をここで聞かれて、意欲を出されて、それ以降は、その方が実質にお金を出して、経理の勉強するというそういう内容なんではないかな。

○委員長（秋元美智子君）

流れですね。はい、お願いします。

田中課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課、田中です。

この子育ての経費スクールプログラムの

提供につきまして、コンシェルジュの中でまずは周知をしていきたいというふうに考えておまして、周知をして申込みもできるような、ワンストップでできるような体制をとっていきたく。

まずは、2か月間のトライアルということで無料で受けていただけるものなので、気軽に受けていただけるような仕組みにしていきたいなというふうに考えてます。なかなかその利用状況を見ながら、周知が足りないということであればおっしゃったように広報ですとか、そういった別の方法も考えていながら、進めていきたいんですけども、2か月のトライアルを過ぎてまた本格的に、もう少し勉強したいということであればまた有料サービスにはなりますけども民間サービスとして、展開していくというような流れで考えております。

○委員長（秋元美智子君）

学習する場所ってのは、スマホを通してですか、それともあそこの子育て広場に行く感じなのかな。はい、お願いします。

田中課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい、まちづくり創造課の田中です。

申込みをしていただく際にですね、オンラインのスクールなので、メールアドレスとか、そういったものを登録するんですけども、登録すればですね御自身のスマホでも、御自宅のパソコンでも、その ID パスワードの発行でですね、できると、受講ができると。

家でやってももちろん結構ですし、そういったのが去年ですね、パソコンを用意しておりますけども、その端末でも受けていただけるような体制を整えたいというふうに考えてます。

○委員長（秋元美智子君）

はい、永谷委員。

○委員（永谷幸弘君）

今回経理なんですけど、本当に経理について勉強しようという方がいらっしゃるのかどうか、私もわかりませんがね。

前回まではゼロ人ということだったんですね。

それは期間が長くとられたのかどうかわかりませんが、コンシェルジュアプリの中で、要するに発信したということですね。

この経理という観点はちょっと私よくわからないんですけど、例えば経理のほかにもいろいろなことがあると思うんです。例えば高齢化が進んでますので、介護的な話とかですね、介護福祉士とか、いろいろな関係があると思うんですけど、どうしてこの経理を表に出してされたのか、ちょっとその点についてお伺いします。

○委員長（秋元美智子君）

はい、田中課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい。まちづくり創造課、田中です。

今回のこの子育てのサービスにつきましては、まずオンラインで受講できるというところを前提に考えました。且つですね、なぜ経理なのかというところなんですけど、想定としまして、子育て中のお母さんがですね、子育て期間中に離職されてて、ある程度一定一段落ついたら、また、仕事に就きたいというような方を何となくイメージしながら作ってるサービスなんですけど、この経理スクールというのが、最近テレワークなんかも増えてきておまして、特にテレワークに適している、家でもお仕事ができるというようなところに適したものが経理ではないかというようなところで、今回は経理スクール、おっしゃるとおりほかにもいろいろな資格とかを取るに当たってのオンラインのスクールございますので、

そういったところも今後はですね、考えてはいかないといけないと思うんですけども、まずはこの経理スクールは、そういった趣旨からスタートしたというところでございます。

○委員（永並 啓君）

はい、永並委員。

経理スクールはこっちが提案したんですか。何とか経理を学べる場を用意してくださいって言って、用意された会社が1年ぐらいしかたっていないような事業者を、この団体が引っ張ってきたってことなんですか。

いや僕は向こうが提案してきて経理、取りあえず、ここの中に登録してる経理スクールの団体があるからそこを入れてみましょうかっていうふうに言ったかと思ってたんですけど、豊能町が経理いいよねっていう形で提案し、経理のスクールをお願いしたいということだったのか。その確認を。

○委員長（秋元美智子君）

はい、田中課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい、まちづくり創造課の田中です。

もちろんこのCue1という会社につきましてはこのCSPFCの参画の企業でございます。

サービスの提案についてはCSPFCの中からの提案を受けたものになっておるんですけども、そういった協議の中で、そういったお話があったというところで説明をさせていただいたところでございます。

○委員長（秋元美智子君）

答えになってないけど、町が提案したの。

はい、田中課長お願いします。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい、まちづくり創造館の田中です。

すいません。説明が不足しておりました。

このCue 1というのはCSFFCの参加企業で、CSFFCのほうから提案があったものについて、そういった先ほど説明しましたような協議をしてきたということでございます。

○委員長（秋元美智子君）

はい、永並委員。

○委員（永並 啓君）

やっぱり相手主導なんですよ。それだったら、例えば事前に豊能町の中で、子育てをしている保護者にアンケートをとって、豊能町ではこういったのを求められてます。だからこういったのをしたいっていうんだったらいいんですけど、何かやっぱりこれもね、なぜ実績を求めないとなかなか行政の事業ってとれないはずなのに、こういう業務委託を使うと、たった1年に満たない、どういうあれで引っ張ってきたのかわからないけど、そこに名を連ねている企業だったら参画できるっていう仕組みが、非常に僕この会社危険だと思ってるんですね。だって、そんだけの時間しか会社としてまだ設立して時間がたっていないところに教育さすんですよ。教育って一番実績が要るところだと僕は思ってるんです。資格の学校についてもね、これくらい結果出てきました。

でもそういうのがよくわからない。いちかばちかでやってみましたというところに、教育さして、それは大丈夫なのかっていうところが非常にあるんですよ。

オンラインでやるっていうのであれば、今オンラインで経理だけじゃなくて、いろんな資格、オンラインで受けれますよ。

そしたらもうそこをもっと取捨選択して選ぶという選択もあるし、経理にこだわる必要はあるんですか。ほかの学べるところに変えるっていう選択はできないのか。オンラインだったらシステムでつながってますよね。その相手さんがどういうことを

しゃべるかだけだったらオンラインでいろんな資格のレッスンしてるとたくさんあるんでそういったところに変えることもできないのかを御確認したいと思います。

○委員長（秋元美智子君）

変更効くのかですね。はい、お願いします。

松本理事。

○総務部理事（松本真由美君）

松本です。

今回お示しさせさせていただいている金額は全て新しいものをせず、データの上に乗っているものをKPIを達成するためにしていくというものの数字を入れさせていただいております。

経理かどうか、これがよかったのかという御意見は、前回からたくさんいただいているところでもございまして、その御意見はちょうどいただいた上でですね、展開の中で違う展開になっていくのかもわかりません。雇用という切り口なのか、子育てという切り口なのかかわからないですけども、いただいたお話っていうのは違うところで施策として進めていけるのかどうかというのは、まち課、企画の部門としては考えていかなければいけないということは認識しているんですけども、今回このお示ししている数字の中でですね、経理じゃない違うものの展開を入れていくのかっていうことになりまして、今回これはKPIを達成していくためのメニューでございますので、新しいメニューはここには載せるということはずらずに、今お示しさせていただいているところでもございます。

○委員長（秋元美智子君）

このデータを取るだけの80万円、どうということ。どう理解したらいいんだろう、

○総務部理事（松本真由美君）

経理スクールにしたいきさつ等は御説明

させていただいた中ですね、それは経理スクール、ここのCue1にするっていうのがもともと、よくなかったのではないかという御意見をいただいているというのは私認識してますし、承知しております。

KPIの中でですね、進めていくっていうことで、予算はゼロの中で進めていくというのがありますので、これはさせていただきたい。KPIの未達でもいいんですけども、まず進めていかなければいけないというところがございますので、進めていきたいとは思いますが、進めていく上ですね、先ほど永並委員からいただいたですね、非常に危険な業者ではないかというところの御意見については、危険な業者なのか信用度はどうなのかというあたりは、もう一度振り返ってですね、CSFPCと詰めるとか、だからそういうことはしないといけないなということは思っております。

いただいた意見としてのお答えとしては、そういう形で、KPIは叶えていくために進めていかないといけないんですけども、本当に経理でよかったのかとか、あとCue1という会社はどうかっていうことについては、事務局のほうにもぶつけながらですね、話はしていく必要があるなというふうに私的には思いました。

○委員長（秋元美智子君）

はい、永並委員。

○委員（永並 啓君）

一応KPIのためっていうことであれば、先ほど田中課長がおっしゃられたような、特に募集とかを積極的にかけるっていうことじゃないという認識でいいですか。

これ募集とかをかけるとそこに人、もしかしたら集まるかもしれないですね。

そしたら、もうそおとして置くというような形になるのかなと。そうとして2年

間過ごすために80万円がいるのかなっていう何とも残念な、子育てタウンのほうかな。

そしたら、いや、ぜひともそこは本当に、僕はもう募集はやめてもらいたいのは、これ、突き進んでいくとさらに金額高いのに、誘導するようなものになってるんですね10何万円のプランが出てたりとか、それは非常に危険だし、これ別に経理であるならば、簿記の資格が取れますとかそっちそこを目指すっていうんであればまだちょっとは理解できるんですけど、別に本当に経理一般的な経理を学だけっぽいですよ。

それはちょっと本当に、ただの何か資格の学校でもないし、何をするとところかなと思うんで、ここの募集というのは本当にされないほうが、後々、1回募集して1人入った人おりました。そのあと高額な金額請求されました。もしくは2年間してもうやめるようになりましたとかってなると、本当に目も当てられないんで、この募集というのは本当に慎重に考えていただきたいと思います。

○委員長（秋元美智子君）

でもスマホの中では募集してますよね。これはずっとですね。はい、わかりました。そういう状況です。

ほかに質問ございますか。

はい、池田委員。

○委員（池田忠史君）

子育てだけじゃないんですけど、これコンシェルジュ使って募集したりとか、ポイントもコンシェルジュとかっていうことになってる。これを使っていけないと駄目っていうことだと思うんですけど、今現在、これを一体どれだけの人がダウンロードして使ってて、今後この2年間の間にこれを増やしていくのか。それとも今使っておられる方での検証なのか、その辺がちょっと見えないんですけど、その辺をどういうふ

うに考えられてるんですかね。

○委員長（秋元美智子君）

はい、田中課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい、まちづくり創造課の田中です。

まずこのコンシェルジュの登録者数なんですけども、今約 2,800 人ぐらいの方の登録になっております。

で、このコンシェルジュ自体はこのスマートシティのこのサービスをですね、展開していく上で一つのキーとなるアプリとなっていて、スマートシティアプリを使って、サービスを展開していくというものですので、とよのんコンシェルジュについては必要だと。今 2,800 人ぐらいが登録されると。

今後増やしていく予定なのか、どうなのかというところにつきましてはですね、今後サービスをしていく中でですね、新たなそういう登録者というの、獲得していく必要があるかと思っていますし、そのサービスの展開と合わせてですね、そこについては見ていく必要があるのかなというふうに考えております。

またこのコンシェルジュ自体のダウンロード数というの、この K P I の中に入っておりますので、その数字については引き続き、見ていくというようなところでございます。

○委員長（秋元美智子君）

2,800 人の中に、子育てのお母さんというのはどれぐらいいるんですか。

もしわかるならば、この経理の対象者ですね。

はい、お願いします。

田中課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

この 2,800 人の内訳、年齢層の内訳等に

ついてはすいません、今手持ちとしてデータは持っておりません。

○委員長（秋元美智子君）

わかりました。

はい、池田委員。

○委員（池田忠史君）

すいません。コンシェルジュは、今 2,800 人ダウンロードされてるってことですけど、これ例えばですけど、人数が増えていって、人数が増えればその分、維持管理ですよ。システムとか、お金が余分にかかってくるっていうのであれば、増えて欲しいのもありますけど、考えもんなところもあるんで。そのへんの流れはどんな感じになってるんですか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、田中課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課、田中です。

このとよのんコンシェルジュの運用につきましては、今 C S P F C ともですね、協議していく中では、内訳のところにも書かせていただいておりますけども、費用をかけずにですね、0 円というようなところで、運用していくというような協議をしておるところでございます。

○委員長（秋元美智子君）

ありがたいことです。

ほか、よろしいですか。

はい、川上委員。

○委員（川上 勲君）

参考までに言うときますけどね、公園の工事の許可願出たのが、11 月か 12 月ですよ。看板かなんか上がってましたわ。参考までに言うときますわ。

もう一つはね、こういう事業をするのに目的はね、豊能町は少子高齢化で子どもが増えへんと。だから増やす目的でこういうことをすんのんか、それとも減らさんがた

めにすんのんかね。将来はやっぱりね、子どもの数を増やす、人口を増やすのは大目的ですわ。

年寄りなんかも余り増やしても金要るばっかりやから、増やさんのうがええねんけどね。やっば若い人は増やしてほしいと思う。

そのためにはこういう事業をやって、町外に発信をやって、豊能町はこういうスマートシティの事業やってまっせと。

だから豊能町に来てくれというのが目的なんかね、その事業をするのが目的なんかどっちでっか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、松本理事。

○総務部理事（松本真由美君）

地方創生の中の取組というふうに考えておりますので、人口を維持、さらに人口が増える、子育て施策で人口を流入させるような施策になっていくというのがこの目的でございます。

○委員長（秋元美智子君）

はい、川上委員。

○委員（川上 勲君）

それやったら外に向かってもこれ、こういう事業を豊能町やってまっせと。だから豊能町に来てくれと、いうことも言うていく必要ありますわな。その辺はどないですか。どういうふうに考えておられます。

○委員長（秋元美智子君）

はい、松本理事。

○総務部理事（松本真由美君）

おっしゃるとおりだと思っております。以前最初のほうにお見せしたときにですねメニューの中に観光というのがありました。おてつたびのこととかも聞いていただいていたと思うんですけども、こちら辺がうまく進まなくてですね、今観光、おてつたびというのがメニューから消えていると

ころなんですけれども、目的としましては人口を増やすための施策を、デジタルの力を活用してですね、行っていくというためにとった交付金でございますので、その力を使って増えていければということでここまで進めてまいりました。

人を増やすための、外発信ですね、これは去年どこの事業の中でもしてきたわけなんですけれども、それ以外のところでですね、企画という部分で、この交付金を使ってしなくても、していかないといけないというふうに理解はしております。

○委員長（秋元美智子君）

はい、よろしいですか。ほかもこの計画について。

はい、池田委員。

○委員（池田忠史君）

この中で、今後も使われていくであろうって言われているモビリティに関してなんですけど、昨年の実績でいうと、事業の運行は別にしたとして、5,000万円以上かかっているんですね。

人流の分析だけでも1,000万円以上かかっているような事業なんですけど、実際これ、トータルで1,095万円っていう形での事業費が上がってまして、これで昨年度実施したような、そういう何ていうんですかね、データ分析であったりとかそんなができるって考えてこの金額が上がってるのかちょっとお伺いします。

○委員長（秋元美智子君）

はい、お願いします。

田中課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

今回のこのモビリティサービスの1,095万円につきましては、あくまでもオンデマンドシステム、それから予約のアプリ、こういったものの運用、それから、ライセン

ス料ですね、それから、最適化分析ということでこれは昨年度SWAT Mobilityが実施しました分析ですね、そういったものにかかる費用ということで1,095万円です。ただ実際の実験に関しましては、当然、人件費の部分であったりとか、ほかにかかってくる費用ございますけども、そういったものはここには入っておりませんので、1,095万円はあくまでもシステムの運用代というところになっております。

最適化分析につきましても、この範囲の中でやっていくということでございます。

○委員長（秋元美智子君）

それはわかるけど、この金額。
どうぞ。はい、池田委員。

○委員（池田忠史君）

運行に関わる費用はまた別で、町のほうからもお金出てますし、そこはわかってるんで、そこじゃなくて、あくまでもシステムの運用もしくはデータ分析に関して、昨年5,000万円以上かかっているのが、1,000万円のできるのかという話なんで、全体的な話じゃなくて、その運用の人件費とかそんな話は今聞いてないんですよ。分析とかその他に関してなんです。

○委員長（秋元美智子君）

はい、田中課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい、まちづくり創造課田中です。

分析も含めましてこの1,095万円のできるということでございます。

○委員長（秋元美智子君）

大丈夫ですね。

はい、大丈夫だってことです。

はい、池田委員。

○委員（池田忠史君）

あとですね、これ費用の中には入っていないんですけど、モビリティ実際今回は幾らかお金もらうんですよ。その収益のあつ

たお金については、一体何をどう使う予定になってるのかその辺をお伺いしたい。

○委員長（秋元美智子君）

はい、田中課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい。まちづくり創造課、田中です。

今回有償実験ということで、おっしゃるとおり収益については運賃収入というのがございます。こちらの運賃収入につきましては、事業費とですね、当然全体の事業費がございまして、そこから、運賃収入を差し引いた分の部分で今回の事業を行っていくということでございますので、事業費からですね、運賃収入を差し引くようなイメージをしております、その以外の部分についてはまた大阪府の補助金とか、町の負担金とかっていうのを充てて、運用していくというようなところでございます。

○委員長（秋元美智子君）

はい、池田委員。

○委員（池田忠史君）

前にも、オンデマンド交通については資料いただいている中で、環境整備と運行に関わる費用と別々にいただけてますよね。

その収益はどちらに充てる予定になっているんですか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、お願いします。

はい、田中課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい、まちづくり創造課の田中です。

収益については運行周知のほうに係る経費のほうに充てるということでございます。

今回のこの1,095万円には充たらないということでございます。

○委員長（秋元美智子君）

はい、池田委員。

○委員（池田忠史君）

それって、町からの負担と府からの負担

と、あと事業者からの負担とあると思うんですよ。明らかに町からの負担がかなりの金額を占めてると思うんですけど、それを均等に割るっていうことなんですかね。

均等に割るって言い方変ですね。そこに充てるということは、あれなんでしょうけど、例えば 600 万円かかかって、その収益が上がった分に関しては、町に返ってくるのか事業者の負担が減るのか。どちらになるのかってイメージですかね、どっちかという。言いたいことをわかってもらえますかね。

○委員長（秋元美智子君）

はい、田中課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

実証実験をするに当たりまして、人件費とか燃料費も含めました総事業費、運行に係る経費、総コストがございます。そこから、運賃収入で得られた分を引きます。その差が出てくるかと思うんですけども、いわゆる赤の部分ですね、赤字の部分が出てくるかと思うんですけど、その例えば、例えば3分の2が国からの補助金とか、2分の1が大阪府の補助金とかいう形で補助金で賄える分、それから、豊能町から負担金として支出する分がございます。そこでまだ残った部分が交通事業者の負担というふうな形を想定して考えております。

○委員長（秋元美智子君）

そういう話になってるんですね。

いいですかね。ほかございますか。

質問がなければ次進めたいと思いますけども。

はい、議長どうぞ。

○議長（管野英美子君）

先ほどかがったデジタル教育のことなんですけど、教室等の運営費に1回24万円かかるということですか。何に使われるん

ですか。人件費だけですか。

○委員長（秋元美智子君）

ごめんなさい。デジタル教育ね。

はい、田中課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい、まちづくり創造課の田中です。

教室の運営一回当たり24万円ということなんですけども、こちらにつきましては人件費でありますとか、それから教材の作成、であったりとか、そういった部分にかかる経費というふうには伺っております。

○委員長（秋元美智子君）

はい、議長。

○議長（管野英美子君）

この一回を吉川中学の生徒にしたら、一回分減るじゃないですか。それと、そんなにスマホ教室で資料なんかいるんですか。実際もうこれでどうすんねんどうすんねんって聞かれてたじゃないですか。

あの時、モビリティをするために集まってもらった感じなんですけど、LINE交換もしてはったし、本当にこんなにお金かかるもんなんですか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、松本理事。

○総務部理事（松本真由美君）

見積りをですね、出していただいたというところではこの金額になっております。

やり方としてですね、この書いておりますとよのていねい、NTTにお願いすると、この金額ということになっていくということになります。

例えばですね、先ほど出てきました中学生によるスマホ教室、こんなことができるんですね、デジタルデバイドの解消プラスその地域コミュニティっていうのが図れるので、この事業っていうのは非常に有用だったっていうふうに学校の校長先生ともお話をしています。

こういうことは、またまちづくりとしてですね、学校の生徒のボランティア活動の一環として、一緒にしてもいいよって言うようなことは校長先生から御意見としてもいただいておりますので、これが高いという御意見を今いただいと私は受け止めておりました、それを中学校のスマホ教室とか、あと地域のコミュニティの力を使って、お金を使わずしてできる方法はないのかということ、考えていきたいとこのように思っております。

○委員長（秋元美智子君）

ぜひお願いします。

はい、永並委員

○委員（永並 啓君）

ということはK P Iが終わっても続けていくような感じですか。このスマホ教室的なものは。

僕は基本的にこれは要らないと思ってるのは、これドコモとかa uとか、そこら辺が積極的にすべきことで、自治体でやる、お金をかけてって言うところではないかなあと。

今松本さんが提案されたのは中学生のいろんな経験の場、コミュニティの場としてはいろいろこういうのが、無料のやつであったらいいかもしれないですけど、もし毎年するって言うのかどうかそのお考えだけお聞かせいただけますか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、松本理事。

○総務部理事（松本真由美君）

今回デジタル田園都市国家構想推進交付金をですね使った、去年度があつての今回のK P Iという部分については、こういう形でしていかないといけないと思います。

一方で社会構造の変化とかっていうことで、スマホでいろんなことを生活の中で使っていくって言うことは、今後もどんどん

進んでいくのかなと思っております、ほかの部署を見てもですね、スマホ教室というのをされているところもあつたりしますので、それについては今後生活のために必要という形でやっていく。

あとはコミュニティをつくるための一つの方法として、スマホ教室をやっているっていうのを、他市では社会福祉協議会なんかがされてるっていうのを見たりしますので、そういう形でのまちづくりでの発展というのはあると思います。

今回ここにお示ししておりますのは、K P Iを達成するためのデジタル田園都市国家構想推進交付金の去年度の事業があつたものの、あと2年間どうしていくかというところで、C S P F Cからいただいた見積りを持ってつくった資料ということでございますので、この金額が非常に高いという御意見を今日賜っておりますので、それについてはちょっと検討していかないといけないなというふうには受け止めております。

○委員長（秋元美智子君）

高いと思うし、議長おっしゃったように資料は要らないですね。スマホそのものがもう実技のものだから、やっぱりそこら辺も考えて、できる限り少なくなるように取り組んでいただきたいし、今の話、中学生のコミュニティは今後の別な形としての期待度として受け止めさせていただきます。

はい、永並委員。

○委員（永並 啓君）

情報格差の解消として、常に言ってきたのが、使えない人たちにどう使ってもらうのか、それが本来の目的だったのかなと。デジタル田園都市国家構想が、デジタルの力を使って、過疎化した地域とかそういったところでも、そういう行政サービスが受けられるようになってというのが本来の目的なんで、スマホ持ってる人たちはいろんな手

段で使えるんですよ。その人たちのスキルを上げるんじゃなくて、持ってない人たちに、デジタルの力を使って、例えばスマホじゃなくても、他市町村で実際やってたから、バスでもこのボタン押したらこのバス来てくれまんねんや。このレベルですよ、やっぱり。いろんな人に普及してもらおうと、高齢者に使ってもらおうと思ったら。若い人たちは移動手段としていろんなもってますから、そこを教えるよりもまずは持ってない人に、そのゼロから、スマホを持つっていう1まで上げるんじゃなくて、スマホじゃなくても使えるような0.5を上げるってことが、非常に僕は行政の役割としては重要かと思うんですけど、そこら辺がずっと1年間言ってきましたけど。いろんな端末を普及させることも考えているとか言ったけど、結局どれも実現結果しなかったですよ。

だからそこに関して僕は非常に行政が手出すところなのかどうかというのは、中学生の体験としてはいいかもしれないですけど、お金を出してっていうところには非常に疑問を持っていますけど、そこら辺は今後、情報格差の解消として、どうお考えか何かあればお聞かせください。

○委員長（秋元美智子君）

はい、松本理事。

○総務部理事（松本真由美君）

はい。今後の情報格差をどのように埋めていくかっていうのは、ずっとやっていかないといけないものだと思います。行政サービスというものも今後国が示しているのが形が変わって行くというようなところもございまして、それを見据えると、情報のとり方に格差がある方っていうのは、何か違う方法がないかっていうのは、模索していかないといけないというふうに思っております。

○委員長（秋元美智子君）

今回はね、K P I のための予算はほとんどそれですけど、ただやっぱり議員の大多数は気持ちよく思っていない。スタートがスタートだったし、わからんまま来てるんで。

ですから議長のほうからもありましたように、本当にスマホの教室に資料必要かとかね、言われたままの予算で組むんじゃなくて、やはりもう一遍ちょっと見つめていただきたいし、さらにもう一つ今ここでやるのが今後どのようにつなげていくかっていうこともあわせて、ぜひぜひ考えていただきたいし、その取組をお願いしたいと思いますし、私も十分まだこの中身を理解したわけじゃありませんけども、ちょっと暫時休憩いたします。

（午前 11 時 17 分 休憩）

（午前 11 時 18 分 再開）

○委員長（秋元美智子君）

では休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

どうぞ順次。

はい、議長。

○議長（管野英美子君）

すいません、ヘルスケアなんですけど、ウェアラブルを 191 個も渡したにもかかわらず、付けてる人はあんまり見たことないし家に置いてあるとか、それでデータ収集ができているのか、それを K P I って、調査するんかもしれませんが、今、配った人さえ付けていないんですよ。

この前 4 人しか付けてない、4 人だけって聞いたような気がするんですけどもって付けたはれへんと思うんです。

それで、今、ちゃんと付けてくださいから始めないといけないと思うのと、さらにあと 100 個配るのはどうするのか、お伺いします。

○委員長（秋元美智子君）

まず現況で。はい、小森部長。

○保健福祉部長（小森 進君）

はい、保健福祉部の小森でございます。

確かにですね、委員からも直接私もお聞きもしてはいますが、お使いになられてないケースもちょっと把握はしてございます。

具体的な数字を持ち合わせてるわけではないんですけども、まずデータのほうについては引き続き取り続けておりますので、継続して御使用いただく方については、継続してるということでございます。

未使用の方なんですけれども、実際また皆さんに申込みの際にメールアドレス等をお聞きしてるところもございますので、こちらからの発信ということは可能かなと思ってますので、引き続きどうなされてますかというようなこともあわせて取り組みたいなというふうに思っております。

それと、今年度のことにつきまして、残りの部分をお配りしてということになるんですけども、ここにつきましては、昨年度につきましては、全協の際にも報告させていただきましたけれども、まずは取組として我々の、いろんな事業に参加されてる方を中心にお配りをしたということでございます。

それと検診に参加されてる方についてターゲットとしてお渡ししています。

今年度につきましては、私ども国民健康保険の特定健診なんですけど、これは府下では割と、全体的にはいいデータといえますか、トップクラスの率になるんですけども、実はスタートしてる40歳代と、65歳から74歳までの間にこれに大体3倍程度の受診率開きがございますので、できれば、この40代のゾーンを中心に、特にまだ受けておられない方を中心にまず、御案内をさ

せていただきながら、残量を見ながらですね、お配りをしたいなというふうに思っております。

以上です。

○委員長（秋元美智子君）

議長。

○議長（管野英美子君）

前回配った中で、データとして集められていない数っていうのはわかるんですか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、小森部長。

○保健福祉部長（小森 進君）

実際問題ちょっとそここのところ、データはずらっとデータ上数字の入ったままもういただいてまして、これもちょっと以前にちょっとお話しさせていただいたと思うんですけども、ちょっとある時点なんですけれども、181名のデータ、だから先ほどお配りしたのは、199個ぐらいだと思います。このうち181名のデータがこれ集積されておまして、以前もお話しさせてもらったんですけども、1日の平均歩数が約6,500歩であったり、1日の平均で一番多い人は17,000歩、歩いてる方いらっしゃいますよとか、1日当たり1万歩以上の方については30人ぐらいいらっしゃって、約16%ぐらいご利用いただいているというデータは、持っております。以上です。

○委員長（秋元美智子君）

はい、議長。

○議長（管野英美子君）

私も、車なんで、1日2,000歩歩いたらよう歩いたなって思うんですけどね。

睡眠や心拍、ストレス、体温とかみんな測れるって書いてありますけど、そういうデータも蓄積されているんですよ。

全く使ってへん人たくさん知ってるんです。あそこに置いてあるとか、おうち尋ねたら。

そういう人たち、一步も歩いてないじゃないですか、置いてあるから。それが、181人から10人なんですか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、小森部長。

○保健福祉部長（小森 進君）

保健福祉部、小森でございます。

私さっきちょっと時点のほうは言わなかったんですけども、私が今確か前年度の実績の報告をせよということで、そういう機会ございました際にですね調べたデータをちょっとお話しさせていただきました。

やはりその後、現実的には、僕もそうなんですけど、なかなか継続できないこともあるかなと思いますのでですね、先ほど申し上げましたとおり、もう一度御案内できるような機会が今後もあると思いますので、ぜひ私たちといたしましては、お配りしている以上、お使いいただくというのがこれが1番の最大限の目標、目的になってきますので、いろんな機会を通じまして御案内をさせていただきたいと思っております。

○委員長（秋元美智子君）

はい、永並委員

○委員（永並 啓君）

これは利用者の感想なんか聞いているんですか。付けてどうだったとか、それをお聞かせください。

○委員長（秋元美智子君）

はい、小森部長。

○保健福祉部長（小森 進君）

はい、保健福祉部の小森でございます。

実はですね利用者アンケートもあわせてやらせていただいております。

ちょっとお時間いただいているんですか。

すいません。

○委員長（秋元美智子君）

はい、松本理事。

○総務部理事（松本真由美君）

保健福祉部のほうでしていただいているのですね、ウェアラブルは各自治会にですね、モニターという形で、情報の多様化として、取り入れていくというのは自治会としての取組は、どのように活かしているかというようなことでモニターになっていただけないかという14自治会にお声掛けして7自治会、取り組んでいただいております。

その中で5月に意見交換会というのをさせていいただきまして、代表、何名かではございますけれども、アンケートをとらせていただいた後の意見交換というのを、自治会に向けてはさせていただいたところでございます。

○委員長（秋元美智子君）

はい、小森部長。

○保健福祉部長（小森 進君）

保健福祉部の小森でございます。

実はですね、あわせてアンケートを実施しています。

項目については約12項目してございまして、これはあくまでもアンケートですので先ほど申し上げました181人の方全員というわけでございまして、今年2月から3月の頭にかけて、大体約60名弱の方に御案内をさせていただいて、その回答の結果も実は出てございます。

内容については、性別であるとか年齢層、それとか、参加のきっかけでありますとか、これをもし、お金を払うならばどれぐらいの価格単位であれば、よろしいですかとか、そういうようなアンケートも実施させていただいてまして、データのほうは先ほど言われておられました睡眠習慣の改善であるとか、食習慣の改善、運動習慣の改善、このあたりできましたか、できませんでしたかということもあわせてお聞きしております。

以上です。

○委員長（秋元美智子君）

はい、永並委員。

○委員（永並 啓君）

これは、K P I が終わった後も続けるの。というのはもう 40 代とか出てましたけど、僕も付けてないけど、付けない。だって、格好悪い。

今は結構アップルウォッチとか、格好いいのを付けて時計がわりになってるんで、でもそれはラインとかいろんな機能が全部詰まってるし、それなりに格好いいのもあるし、そのただの測定できるバンドっていうのはあんまり付けている人見ないよ。

もうアップルウォッチ付けてる人とかそういうちょっと格好いいの付けてる人が多いんで、若い世代、4,50 代というのは多分付けないかなあという感じはしてるんですけど、今後 2 年 K P I が終わった後、これをどうされるのかをお聞かせください。

○委員長（秋元美智子君）

はい、小森部長。

○保健福祉部長（小森 進君）

保健福祉部、小森でございます。

先ほどちょっと申しあげました、価格設定についてもお聞きさせていただいておりました、もし購入するというのであれば、結果といたしましては 3,000 円から 5,000 円の間が多数でございました。

それと、月額幾らでしたらこのアプリを使ってやりますかという、お答えについては、300 円という形の結果が、昨年状況では出てございます。

委員おっしゃいますとおり、確かに高機能のモデル的にも、格好いいやつが出ているということも私も理解はしてるんですけども、今回はあくまでも私ども行政といたしましては健康の関心が、ちょっと少ない層に対して、今回は無料で御提供させて

いただくというところがミソなのかなと思ってございまして、それは見栄えであるとか、機能であるとか、あるいは、皆さんお金を出していただいて購入されると思うんですけども、今回無料で提供させていただけるというところを強みとして、考えていきたいなと思ってございます。

○委員長（秋元美智子君）

はい、永並委員。

○委員（永並 啓君）

これは健康に関心の薄い人たちに配れたんですか。

いや、何となく、最初健康に関心の高い人が、こういうのがあるんだ、スマートバンドあるんだで付けたような感じを受けてたんですけど、あんまり運動してないような人たちに、どういうふうに把握されるかわからないですけども、そういう方たちにちゃんと、保険課としては配れたんですか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、小森部長。

○保健福祉部長（小森 進君）

保健福祉部の小森でございます。

ちょっと先ほど申しあげましたとおり、昨年度につきましてはちょっと時間もなかったことも、これちょっと言い訳なんですけどあったということもございまして、我々の介護予防でありますとか、特に特定健診の集団や個別、このへんの参加者の方についてはアプローチをさせていただいたということになってございます。

ただ、集団検診につきましても、40 代だけにこだわることなく、20 代からの方についてもお配りをさせていただきました。

今年度は、もう一度、初期に立ち返りまして、一番関心の少ないゾーンですね、そこを集中的に、今年度については取り組みたいというふうに思っております。

以上です。

○委員長（秋元美智子君）

ちょっと1点いいですか。

この473万円のうち278万円が、システム運用（講座含む）ってなってますよね。

この講座っていうのは、隣に書いてある健康講座と測定会、計10回のことを言ってるんですか。

もうちょっとこの中身の詳しい内訳を教えてください。

はい、田中課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

このシステム運用の278万円なんですけども、これはウェアラブル機器のシステムをまず運用するにあたっての費用なんですけども、それに加えてウェアラブルを实际使ってもらっている方に対してのですね、健康測定会であったりとか、健康講座を行うことになっております。

この講座を開く経費につきましても、この278万円中に含んでいますよという意味でございまして、この278万円がシステムが幾らで、講座は幾らでということまではちょっとここでは出てないんですけども、278万円の中にシステム運用、ウェアラブルの運用と、講座の部分が入ってますと、いうふうな数字でございます。

○委員長（秋元美智子君）

くどいようだけど、それは使ってる人のための講座ですね。今の説明そういう風に聞こえたんですが、一般じゃなくて。

はい、お願いします。

はい、田中課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

ウェアラブル機器を使っておられる方に対する講座になります。

○委員長（秋元美智子君）

はい、永並委員。

○委員（永並 啓君）

すいません、ここでテレビプッシュっていうのが出てくるんですけど、ここだけですか。

何か、バスの予約にも使うとか、ほかのどこでもいろいろテレビプッシュを使ったっていうのは言ってましたけど、これ、この金額でこの部分だけを見るのか、ほかのシステムは要らないのか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、松本理事。

○総務部理事（松本真由美君）

テレビプッシュについてはヘルスケアのところに書いておりますが、この金額でもってモビリティでですね、今、AIオンデマンドを予約いただけるというところもしておりますが、それも全て含めてこのヘルスケアの中に書いております。

この金額の中でしていくということになります。

○委員長（秋元美智子君）

ほかございますか。

いや、もし今のあれでなければもう次の質問に入りたいと思いますが。できる限り集中していきながらいきたいと思いますが、ヘルスケアの部分はよろしいですね。

はい、ほかございますでしょうか。

はい、永並委員。

○委員（永並 啓君）

地域経済でポイントなんですけど、ここにKPIするのに、ウォレットの作成に結構金額使ったのかなと僕は思ってるんですけど、それはもう見なくていいんですか。

もしKPIをするのであればね、ここで見なくていいならほか見なくていいんじゃないかみたいなことになるんですけど、ウォレットが何でどこにも入ってないし、前回の地域商品券でも紙でやるし、うちの場合はウォレットがあるからウォレット使え

ばってというような感じで思ってたんですけど、ウォレットはどこにどう組み、考えておられるのか位置づけを含めてお聞かせください。

○委員長（秋元美智子君）

はい、田中課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい、この地域経済のサービスのところのK P Iの中に、地域ポイントの運用というのがございます。

要はこのポイントの運用も何で行うのかというところにつきまして、昨年度はとよのんウォレットを活用したポイントの運用というのを行ったわけなんですけども、令和5年度、K P Iを実施していくに当たって、何らかの方法でポイントの運用はしていかないといけないんですけども、とよのんウォレットを活用するに当たりまして少し経費のほうがですね、高くつくというところがございます、一旦ちょっと違う形でのポイント運用ができないかというところでヘルスケアと連携をした形での運用を今回考えたということで、令和5年度にしましては一旦とよのんウォレットの運用ではなく、ヘルスケアとの連携でのポイント活用というふうな形で考えております。

○委員長（秋元美智子君）

はい、永並委員。

○委員（永並 啓君）

我々ここで議論してるのは、本当は、ほぼほぼやめたいんですよ。バスぐらいだけでね。

でもK P Iでは、国の補助金絡みで、続けられないといけない検証しないといけないからっていうところで、いろいろ頭を抱えているところなんですけど。

このとよのんウォレットに関しては、今みたいな運用の仕方があるんですか。

そこをお聞かせください

○委員長（秋元美智子君）

はい、松本理事。

○総務部理事（松本真由美君）

とよのんウォレットですね、本当のことを言いますと使いたいです。で、とよのんウォレットを使ってK P Iしたいです。

ただ、それしようと思うと1,000万円超えます。

この1,000万円をですね、町単費で出していくのはどうかなっていうのを、課内でも、C S P F Cとも協議いろいろいたしました。

で、本来は1,000万円の費用をここに計上した上で、ポイントの部分についてのK P Iをとよのんウォレットを使ってやりたいというところではあるんですけども、そこだけに1,000万円という金額を入れるのはどうかというところで、課内で、作戦というか、今回その1,000万円というのを計上するのをやめよう。やめるにはK P Iを叶えるには、どこにポイントをもってったらいいのかなという話をした中でですね、ヘルスケアのウェアラブルを付けていただいている方の、ヘルスケアの中でのとよのんポイントをつけていただくというこれを、K P Iのほうに計上していったらどうかなということをお考えまして、ここのところは費用をかなり低くするためにウォレットを使うのをやめたということでございます。

○委員長（秋元美智子君）

はい、永並委員。

○委員（永並 啓君）

多分そういう、すごい逆転の発想的なものでやめられたのかなと。

いや、僕は聞いているのは、それだったら、ほかの検証方法もあるのかなというふうになっちゃうんですよ。

例えば、コンシェルジュを使わない、いろんなこの、システム絡みを使わない運用

の結果や検証ってあるのかなあと。全てシステム絡みの検証ですけどね。

使わなかったら2年3年どうなるのかなっていうのを、検証してみましたって報告はできないのかなあというその切替えですよ。

今も別にとよのんウォレットに多額のお金が入り込められているはずなんですけど、それを使っても、別にその検証を使わない検証もありみたいな話だったんで、いやそれだったらほかの事業についても、システムを使わない検証、つくったけども、2年目3年目は逆に使わなくて、どうなるかっていう検証をしてみましたでも、結果的に町ではこういうことでしたっていうランディング方法もあるのかなあというふうに思っているんですけど、そういった切り口で考えることはできないんですか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、松本理事。

○総務部理事（松本真由美君）

とよのんコンシェルジュについてのお話をさせていただきたいんですが、デジ田の交付金のタイプⅡっていうのをとって今回進めたんですけど、これはもうデータ連携基盤の活用というものがもう必ず前提ということになっておりまして、それを進めていくには、とよのんコンシェルジュは必ず使わなければいけないというところでもございました。

で、ウォレットについては、少し考え方を変えたら、いけるのではないかなという発想から、1,000万円を削減するために、こういう形で進めていこうかということで課の中で、ここの数字を載せさせていただいたというところでもございます。

○委員長（秋元美智子君）

はい、永並委員。

○委員（永並 啓君）

デジタル行政のところを質問するんですけど、ここに自治体ダッシュボードこれも全部この項目を全部しないといけないのか、例えばどれに連携しているんですかね。

例えばこれそれぞれの項目が、例えばモビリティを動かすには、これが必要ですよとか。この次のやつ自治体ダッシュボードとするためにはこれが要りますよとか、どっかにつながってて、どれをやめたら、どれを使わなかったらどれが動かないとかそういうふうになってるかと思うんですけど、それがわかれば教えてもらいたいですけど。

○委員長（秋元美智子君）

はい、田中課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい、まちづくり創造課の田中です。

それぞれのシステムはですね、そのデータ連携基盤につながっているんですけども、例えばこの自治体ダッシュボードとかRPA予約システム、手続ナビそれぞれのサービスは全てデータ連携基盤につながっているということになります。なのでそれぞれの横の、システムごとのデータ連携はデータ連携基盤を通じてできるというものでございますので、それがどうつながってるかといいますとデータ連携基盤にそれぞれが繋がってるというような、そういうお答えになるかと思えます。

○委員長（秋元美智子君）

はい、永並委員。

○委員（永並 啓君）

我々もこの事業を全てやったほうがいいのか、よっていうようになるのか、どっかはやめたほうがいいのかよってなった場合に、このデジタル行政の中でいろんなシステムが組み込まれていると。これにデータ連携基盤としてデータが繋がっていると。

例えば、子育てのほうはちょっと考えも

のだよねってなったときに子育ては、この、デジタル行政のどのシステムにつながっているのかっていうところを知りたいです。

そうしないと、ちょっとなかなか、全体像というか、どういうふうに連携しているかわからないんで、例えばモビリティを動かすだけだったら、一つの予約サービスだけでいけるのか、ほかにもいろんなものを全部使わないと駄目なのか、そこら辺を聞きたいんです。

○委員長（秋元美智子君）

それって別途資料が必要かな。

はい、お願いします。

口頭で答えできるかどうかちょっとわかりませんが、お願いします。

いかがですか、難しいですか。

はい、お願いします。

はい、田中課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

はい、まちづくり創造課の田中です。

そうですね、これお答えの仕方が難しいんですけど、データ連携基盤にはそれぞれのシステムつながってるんですけども、そのほかのシステムを動かそうと思ったときに、これがなかったら、動かないのかと言われると、そんなこともない。

ただ、コンシェルジュに関しましては、全てのサービスのもとになっておりますので、コンシェルジュに関しては少なくともほかのサービスを動かすときには、必ず必要になってくるものです。

で、データ連携はしてますけども、そのシステムがなかったら動かないのかと言われるとそんなこともないので、その意味で言いますとコンシェルジュと、手続ナビのほうの運用につきましてはもう既にコンシェルジュの中に入っているというようなものもございますので、コンシェルジュから

すぼっと抜けてしまうということになってしまいますので、コンシェルジュをベースにコンシェルジュにつながっている部分というたらこの手続ナビになるのかなというふうに思っております。

○委員長（秋元美智子君）

今の答えでいいですか。

ちょっと私わかんなかったけど。

ちょっと理解できなかった。

はい、川上委員。

○委員（川上 勲君）

どうも理解できんねんけどね。

この数字、また事業などどっから出てきましたん。この全体スマートシティ事業実施計画書。

どっから出てきたん。この内容をね、全協か何かで協議して、特別委員会で審議せよというふうになりましたん。どうも訳わからん。

この資料は、どこから出てきてるのか。

計画案やけどな、これほかのこの委員以外の人も知ってるの。

○委員長（秋元美智子君）

知ってますよ。議員総会をこのあいだやりました。

○委員（川上 勲君）

これ、我々の特別委員会でせえということになったん。

その辺がどうもねえ、予算の分とね、縦分けなあかんと。

局長どない考えてはるの。

○委員長（秋元美智子君）

この間より詳しい資料を出してもらっただけです。

○委員（川上 勲君）

いやいや詳しいのか知らんけどな、どうもこの中でな、審議するのか知らんけどやね、こと自体がごっつ疑問に思うねん。

局長どない思われます。こんなことでえ

えんか。

○議会事務局長（浜本正義君）

まず5年度の事業内容、これについては予算を出す前にスマートシティ特別委員会で意見を聞いてくれというのがあるんです。

○委員（川上 勲君）

それは、理事者から言われたん。

○議会事務局長（浜本正義君）

いやそれは、議員のほうからです。そういうのがありまして、スマートシティ特別委員会、今日やってますけども、スマートシティ特別委員会の議員さんだけやったあかんやろうと。全議員から意見を求めなあかんやろということで、その前に議員総会をさせていただいた。そういう流れです。

○委員（川上 勲君）

議員総会で、この資料出たん。

○議会事務局長（浜本正義君）

このようなやつです。これは、改良版ですけどね。

○委員長（秋元美智子君）

暫時休憩します。

（午前11時45分 休憩）

（午前11時49分 再開）

○委員長（秋元美智子君）

休憩前に引継ぎ、会議を再開いたします。

それは町長初め3人の部長の方々、ほかにちょっと公務を持っていますので、ここで退席させていただくことになりましたが、ほかの理事者の方々よろしく願いいたします。

では、暫時休憩いたします。

（午前11時50分 休憩）

（午前11時52分 再開）

○委員長（秋元美智子君）

では休憩前に引き続き再開いたします。

今の事業計画の中で、ほかに何か、御質問ございましたら、手を挙げていただきたいと思いますが。

今、地域経済でしたけど、もうほかのことも含めて。

よろしいですか。

はい、議長。

○議長（管野英美子君）

豊能町の姿勢として、例えばコロナのことで、近畿日本ツーリストが420万円不正をされましたよね。

そのときは、豊能町だけじゃないんですけども、1年間指名停止をしていると思うんです。

OZ1に対しては何も、おとがめなしなんでしょうかね。

ちょうど町長いらっしゃらないからあれなんですけど、お答えできますか。

○委員長（秋元美智子君）

ちょっと議長待ってくださいね。

ほかの皆さん、では、実施計画につきましてはもうよろしいですか。

よろしいですか。

2番目の項目に入っていきたいと思えますけども、よろしいですか。

（「はい」との声あり）

○委員長（秋元美智子君）

はい、では2項目目の未納金のことについて話をしていきたいと思えますので。

令和5年度のスマートシティ事業について、今話してましたこれ予算で。

もう1個先ほど触れましたように、もう1個、この特別委員会は議題っていうのかな、項目を持っています。

それはなぜかっていうともう1億3,500万円の未納金についてです。

今の質問でどなたがお答えになるのかな。

はい、お願いいたします。

入江総務部長。

○総務部長（入江太志君）

総務部、入江です。

先ほど議長の質問ですが、今回令和4年

度のスマートシティのこの委託契約は、一応CSPFCが履行をしているという形をとっておりますので、契約上例えば、不履行になっていると、これはですね、川上委員がおっしゃっているとおり、そんな業者とまた契約をするのかということになると思います。

ただ今回CSPFCとの契約に関しては、完全に実績は報告されて、契約どおり完了しているという結果になっておりますので、ただそのCSPFCの構成団体の一つであるOZ1の方が、寄附を申し出られて、それが寄附をされてないということになっておりますので、そこはちょっと切り分けて考えていただきたいなと思っております。

CSPFCが履行してないということであれば、そことまた頼むのかということになると思いますので、そこはちょっと話を切り分けて議論していただければと思っております。以上です。

○委員長（秋元美智子君）

協議会と契約ってことはわかるんですが、その協議会が、OZ1という会社がね、豊能町に寄附しますとして、してないままになってるということに対して、また私としてはですよ、個人的には、またこのOZ1を使うのかという気持ちは持っています。

だからどうせいこうせいって気はないけど、そういうもんですわね。協議会そのものの姿勢としても。

ですからその辺りも含めてね、きちっと対応していく必要があると思っております。

はい、川上委員どうぞ。

○委員（川上 勲君）

今総務部長が答えたな、協議会の代表者がOZ1ちゃうの。そやろ。

それを切り離して考えてって、そんなばかな話あれへんで。認識違いもええとこやと思うわ。

○委員長（秋元美智子君）

協議会の代表変えるとかそういう話されるんですね。

はい、そのお答えがちょっとおかしいってことね。じゃあ、OZ1だけ外したらいいんじゃないですかと。

お答え願えますか。難しい。

はい、副町長。

○副町長（高木 仁君）

すいません。

CSPFCとOZ1というのは、先ほど部長申し上げましたように、切り分けてこちらは認識しておりまして、我々契約してきた、実績報告として上げさせていただいてる元になるのはCSPFCとの契約になります。

これが、部長も申し上げましたように、履行されてるのかどうかっていうとそれは一応履行されておったというところで、一旦事業のほうは、令和4年度の事業が終わってると。

で、寄附の申出をしてこられてるのがこれOZ1というCSPFCの中にいる、何十社か百何社かわかりませんが、そのうちの一家がそういう申出をしてきているというところなので、ちょっとそこはまた別のものかなと思っております。

○委員長（秋元美智子君）

はい、川上委員。

○委員（川上 勲君）

OZ1という会社が、1億9,000何ぼ、ふるさと寄附をするような会社やな。

そうやな。

ほんだらね、聞くけどね、1億9,000何ぼもね、ふるさと納税で寄附する会社が、その事業の内容を見たらね、何十億、何百億って浮いた金がね、寄附しまっせと。その代わり税金は免除してくれよと、こういうこっちゃね、ふるさと納税はね。

その会社自体がね、何十億、何百億の事業をやってたんかね、その辺考えてみたらやね、おのずとあかんなとすぐわかるやんか。

誰が考えても、前の塩川町長以下やね、担当の人も、どこもわからへんかったんか。

そこがおかしい言うてんねや。

それを再度またこのOZ1のね、代表者そのままやね、さすからあかん言うてんねん。

○委員長（秋元美智子君）

答えてくださるならどうぞ。

高木副町長。

○副町長（高木 仁君）

ちょっとお答えになってるかどうかわからないんですけども、これ前のときにも川上委員、御指摘いただいて、いろいろこちらもお答えさせていただいてる話なんですけど、もともとの補正予算を計上させていただいたときに、寄附の申出ということで4億のうちの方2億半分ですね、申し出してるっていうね、事業の成り立ちとしてどうなのかということとは確かにあったかと思えます。

なので、そのときに、寄附の申出をまず取っとく、あるいは先にお金を入れて、払う前にお金入れてもらうっていうところが、手続きとしてあれば、今回のこういう問題なかったのかなということとは我々ちょっと認識してるところでございます。

ただ、普通考えますと確かに議員おっしゃるように、100億なりなんなりの事業をやったそのうちの1億、2億こっちはちょっと寄附してもらおうというのが、わかりやすい話なんですけど今回は4億のうち2億、事業費出してそのうちの2億返してもらって話なのでちょっとそこがわかりにくいのかなというふうに思っております。

恐らくこの企業さんは、ずっとそういう

ことで、今後も展開していく中で、参画していただいている企業のほうから、寄附を集めて、こちらのほうに、何らかの形でそれらは、いただくような、そういうスキームであったのかなとこれ私個人的な認識ですけども、この事業の経過を見てますとそういうことなのかなというふうに思っております。

○委員長（秋元美智子君）

はい、川上委員。

○委員（川上 勲君）

初めにね、OZ1プラス70社か何か後ろにおると。そういう会社が全部集めて、1億9,500万円のふるさと納税をするのかなという思いをしとったわけや。

ところが今聞いたら一社だけがするやろ。そんなこと前からわかっとならやな、誰がふん言うねんな、それ。

○委員長（秋元美智子君）

最初からそういう質問、私自身が質問してますから。

この企業たちが集まって、ふるさと寄附金を出してくれるのかって聞いたって、いや違いますと、OZ1一社ですってそのときにそういうことはもらってます。

○委員長（秋元美智子君）

川上委員。

○委員（川上 勲君）

OZ1一社が、1億9,500万円もな寄附する言うからやな、

そんなことやったら、その事業自体やな、それをさっき言うたように、もっと大きい大きい事業をしてんとやな、寄附できひんがな。

そういうことを考えるとね、この江川なんとかいうのは、政商やということはずぐピンとくるわ。

○委員長（秋元美智子君）

笑い事じゃないんですけどね。

正直言ってこの町にとって大きな問題ですよ、本当に。

しかも企業としてね、やっぱりそういうことを約束した以上、出してもらわなくちゃいけない。

さっき言いました国の補助金絡みですから、それこそまた精査してね、莫大なお金返したほうがいいのかどうかは、今の段階では、答えも出ないですし、まずは、OZ1に向けて、どんな働きかけをしていくか。

川上議員はもうちょっと無理だっていうなことをおっしゃってますけども、実際無理かどうかもちょうと私も判断つかない。だって企業の社会的な評価に関わることですからね。

はい、川上委員。

○委員（川上 勲君）

その会社がな、一社がな、1億9,500万円かのふるさと納税をすること自体がやな、無理やと言うてんねん。

○委員長（秋元美智子君）

はい、わかりはわかりました。そんだけの財力もないだろうと、そういうことね。

だからといって、じゃ、やめますかってこともできないですし。

はい、永並委員。

○委員（永並 啓君）

議員総会でもちよつと言ったんですけど、当然KPIで検証していくということが補助金の条件にはなっているかと思うんですが、豊能町の場合、この補助金を獲得するに至った経緯っていうのが、ほかの自治体とは違うわけですね。

だからこういう事情で、我々は受けてますと、可決したんです。でも総務省が補助金も出してるような団体の人たちが寄附をしてくれないんで、これを継続していくことは難しいですみたいなことも、僕は働きかけてほしいんですよ、国に対しても。そ

れでできることを全部した上で、それでもやらないといけないっていうところを絞っていきなというふうには考えてるんですが、そういった動きっていうのはできないの。できるんですか。

○委員長（秋元美智子君）

はい、高木副町長。

○副町長（高木 仁君）

今の件、永並委員がずっとおっしゃっていただいでることでございまして、私のほうが、これまでも府のほうを通じてということで御説明しておりますが、いろいろなところからですね、国のほうにはアプローチはさせていただいております、ただいま国のほうは明確なお答えいただいでおりません。今確認中ということでございまして、そういったお答えを踏まえた上でですね、今まで先ほど、事業費の中身いろいろおっしゃっていただきました。そういった御意見も踏まえまして、来週、議会ございますけども、そのときに、しかるべき事業の内容で、それを踏まえた予算ということでお示しさせていただいて、御議論御検討いただけたらというふうに思っております。

○委員長（秋元美智子君）

はい、永並委員。

○委員（永並 啓君）

多分ね、もし豊能町が当初当然あとからコロナ交付金で補填はしてもらったとは言え、当初から半分を豊能町のお金でしますって言ったら多分これ通ってない。

絶対通ってないんですよ。

ですから、やはりそういう事情があって、今の議論を聞いてもわかるように、ほとんどの事業が継続できなさそうな事業だし、今の段階で将来的にこの計画を使って住民サービスを展開していくという計画もできてないような状況ですよ。

ですから、どう見たって、このK P Iが終わったら、2年後にはもうどれもがなくなっているのかな。

唯一あるのが、モビリティでありっていう形になるのかなというふうな印象を受けてるんですよ。

考えると、やはりそのほかの事業をK P Iをするために続けるのは致し方ないとしても、一度国のほうに豊能町の事情はこうだったんで、このお金っていうのはもう事業っていうのはもうできませんと。したって将来につながらないんで、できないっていうような交渉みたいなものはやはり僕は国のほうとしていただきたいというふうに思ってますんで、24日まで今副町長がおっしゃられた、期限が1週間ほどありますけれども、そこに間に合えばいいんですけど、そこは本当にお願ひしたいところですね。もう、豊能町にとっては1億3,500万円ってすごい莫大な額ですよ。

町長が何度も言ってるように雑巾を絞りに絞って、乾いた雑巾を絞って改革をしていくっていう中のこの金額ですから。ですからもうなりふり構わず、以前は大阪府に調整してます。

でも僕はそれじゃ駄目だから国のほうにももっと言ってくださいって言って一応いろんな方面からっていうことをおっしゃっていただいていたんでそこに関しては、一定の期待はさせていただくんですけども、ぜひともそれは引き続き、していただきたいと思いますという事は思っています。

○委員長（秋元美智子君）

O Z 1って、川上委員の話じゃないんですけど、最初から財力もないのに、2分の1補助しますと言って、仕事だけ欲しがって言ったのか。

それともそうじゃなくて、本当は出すつもりでいましたと、ほかの企業に協力もら

ってでも、自分の名前でもいいです、ほかの企業からお金集めてでも、自分の名前を出すか何かそういうつもりでいたのか。どうかちょっとその辺も全くわからない。

2億円近いね、企業のふるさと寄附金を約束してね、1億3,500万円出してないっていうのはちょっとあり得ないですし、この辺の事情もなぜこうなってるかもわからない。正直言って。確かにそういうね、そういう商売をする人もいますよ。

だけど、今回の大阪府の紹介ですよ。たしかここに至るまでは。後ろには国もついているわけだよ。

だからまずそこら辺の本人というか、O Z 1がどう考えてるかも、正直言って、この場に呼んで聞きたいぐらいですが、ちょっといきなりそれもなんだから、もうちょっと事情は聞きたいなと思ってますけども。

これ大阪府のほうはどう言ってます。永並委員のほうは国のほうの話、働きかけ言ってますけど、大阪府はどう思ってます。

この事業を大阪府も確か絡んでいたと思いますので。

はい、お願いします。

○副町長（高木 仁君）

大阪府のかかわり方がどうかというところなんですけど、我々市町村局と話しさせていただいておりますが、当初どういう場面でどういう関わりしていったのかというのは、ちょっとまだ市町村局のほうはまだはっきりわかってない。

ただ、前に申し上げましたが、この問題についてはスマシ部も含めまして、府庁全体で、情報共有はさせていただいております、前に申し上げましたけど、この議会、こういった委員会で注視されているという状況でございます。府にかかわらず先ほど永並委員がおっしゃっていただいた国というところも、我々も今後のこの事業ですね、

K P I どうするのかということも含めましてですね、確認はさせていただいてるところでございます。

○委員長（秋元美智子君）

確認してどうでした。途中ですね。

最初から出す気があったのかどうか、それとも言葉悪いけど騙そうとしてたのかわからんけども、そういうところが5年度のK P Iに入ってるってこともね、これ他者から見たら非常に首かしげますわね。

だから、最低O Z 1を協議会から抜くという方向も含めてちょっと考えていただきたいなと私は思いますけどね。

はい、議長。

○議長（管野英美子君）

O Z 1のホームページ見たらとてもきれいな画面で、ええことばかり書いてあるんですけど、一体どういう会社なんですか。

従業員何人で、資本金幾らでっていうことを教えていただけますか。

今さら聞くのも、私たちもどうかと思いますけれど、教えてください。

○委員長（秋元美智子君）

はい、松本理事。

○総務部理事（松本真由美君）

手持ちございませんので調べさせていただきますと思います。

○委員長（秋元美智子君）

過去は、調べたことがありますね。

これから調べるんじゃないですよ。

調べたことあるんですね、資料として出してください。

また、お願いいたします。

これは資料として、委員会のほうからお願いします。

ほか、このことについて、議会としてどのような対応をしていったらいいか。

前回はね、行政のほうから引き続き、O Z 1のほうには払っていただくように交渉

していきますとお返事はいただいておりますけども。

はい、議長。

○議長（管野英美子君）

昨年の6月のことですが、議会も議決したやろって今言われているんですね。

私もチラシを出しました1億3,518万1,000円欠損してますって、もう1回書こうと思ってるんですけど。

あんたたち議決したやないのって言われる、またこれで、3,000万円か知りませんが、それでも議決するんかって言われる状態にあります。

慎重に審議しなきゃいけないと思ってるんですけど、委員の皆さんもよく考えて、議決していただきたいと思います。

○委員長（秋元美智子君）

はい、川上委員。

○委員（川上 勲君）

今の議長の言葉からね、議決したやろということはね、理事者が提案してきたわけですわな。当然ね、そのO Z 1という会社がどういう会社か、その内容はどんなかいうことは精査してね、上げてきたという具合に我々は信じてね、議決したんや。

それをそういうふうに議決したからいうことは、もうこれからやね、理事者の言うこと何も信用できん。やっぱりお互いにね、信頼しおうてこそその議会だと思う。

そういうことを考えるとね、議決したからどうのこうのいうことわやね、これもってのほかやと思う。

○委員長（秋元美智子君）

はい、永谷委員。

○委員（永谷幸弘君）

川上委員おっしゃいましたけど、私もこのO Z 1については当然わかりませんよね。

まして、契約してから、履行して、最終的にふるさと云々が入ってこなかったとい

うことですから、恐らく、先ほど話ありました府のほうも絡んでますんでね。当然、私らも理事者側からも、当然信用してますわ。はっきり言うて。

実際やってみてこういうことが起こったんで今こうなってるんですけど、これってはっきり言って皆さん悪いということわかんないでしょ。この会社が悪いというのは。信用してやったわけですから。だからこれ後は、この問題になってますけども、副町長からもおっしゃってましたけども、粘り強くね、OZ1のほうに話していくしかないということしか、言われなと思うんです。私自身としてはね。

みんな最初からそなんわかってませんよ、このOZ1が悪いかどうかちゅうのわ。誰も知りませんわ。まして、府も絡んでますからね。

そういう点で、あとは何とかして残ってる1億3,500万円を回収するというね、その方向に、先ほど副議長もおっしゃってましたけども、府なり国のほうにですねしっかりと手を打っていくしかないと思いますわ。

もうこれしか、あと何言うても堂々巡りですからね、この話は。ということで私は終わります。

○委員長（秋元美智子君）

粘り強く国府のほうに働きかけてほしいということですね。

はい、どうぞ。川上委員。

○委員（川上 勲君）

今、永谷委員が言われたね、府のほうも絡んでるって、府のほうも絡んでますの、このOZ1の会社に対して。どういうふうに絡んでんの。そんなこと言ったら、府のほうにも責任がある。

○委員長（秋元美智子君）

そうですね。

紹介したのどこだっって言ったら、府って言われたんだから。

はいどうぞ。

松本総務部理事。

○総務部理事（松本真由美君）

もともとですね、大阪府が2025年関西万博までにスマートシティを目指したまちづくりをしようっていうのがございました。

その中で、大阪スマートシティパートナーズフォーラムっていうのを、大阪府がつくりました。

ここの中に企業入れてですね、今400社以上いると思うんですけども、公民連携で、スマートシティのまちづくりを大阪府下進めていこうじゃないかというのが、大阪府とのかかわりのスタートです。

そこの中にいらっしゃったのが、今ここに書いてる企業でしたりとか、OZ1という企業でございます。

で、私たちはなぜそこに関わっていったのかということなんですけれども、大阪府のほうからですね、町の課題に対しての見える化っていうものをプレゼンしないかっていうような、そういう場が各自治体に設けられたときがありました。

そのときにまちづくり創造課の職員が行ってですね、うちの町の人口減少とか高齢化とか、まちについて今後課題がこれいうことがあって、子ども施策、あとそれから高齢者が、健康増進をしながらですね、生活していけるようなスキーム、そんなものを、いろいろ連携してやっていきたいというようなプレゼンをしたところですね、OZ1という会社が一緒にやらないかということで、ほかの自治体、東大阪とか、ほかの自治体も、ほかの企業と一緒にやっているんですけども、その中でOZ1っていうのが、豊能町と一緒にやりませんかということを出てきた。

その中でOZ1がやろうとしている取組に参画したいという会社が出てきましたので、今回その協議会という形をもってですね、豊能町の中で一緒にしていこうというふうに流れていったというところで、大阪府の関わりは最初の大阪スマートシティパートナーズフォーラムというその中で豊能町と、その業者が知り合っていたということでございます。

○委員長（秋元美智子君）

はい、川上委員。

○委員（川上 勲君）

今の理事の説明でね、大阪府はOZ1に絡んでるって、そんなことないわけや。

全体の大きな枠の中で、豊能町だけがOZ1と話し合っ、て、OZ1を選んだんやろ。大阪府何も絡んでないやないか。どこに絡んどる。

○委員長（秋元美智子君）

ちょっと待ってください、川上委員。

過去、塩川町長時代に、この協議会を紹介したのどこだって私質問したら、大阪府と言われました。塩川町長のときですよ。この協議会を紹介したのは誰ですかというときに大阪府っていう答弁をいただいたんです。私自身が。だからそう思っていました。

今の説明聞くとちょっとね、ちょっと違いますね。

だから私はずっと大阪府は深いかわりを持ってると思っています。

だから紹介者は誰ですかって聞いたときに大阪府と、今の形が紹介者と言えばそれまでですけどね。

私は紹介したのはどなたですかって質問したから、大阪府が紹介したんだなと。

でも今のちょっと位置づけですとちょっと私の認識とも違っていたかなっていう。

今もその万博に向けたスマートシティパートナーズってのはあるんですか。

○総務部理事（松本真由美君）

スマートシティパートナーズフォーラムっていうのは、第1期プロジェクトが豊能町が参画したものです。

今第3期まで行って、毎年毎年同じような取組で公民連携の取組が各自治体と企業の中で始まり続けているという、3年目が今年だというふうに理解しています。

○委員長（秋元美智子君）

でも相変わらずOZ1が入ってんですか。

○総務部理事（松本真由美君）

OZ1はOSPの参画されてる企業の一つですので、どこかの自治体と取組をされてるという全てのことを私たちは知らないですけれども、大阪府スマートシティパートナーズフォーラムの中の参画企業でありますし、大阪府とうちの今のかかわりはどういうことをしてるかという、第1期プロジェクトの進捗状況という報告をし続けているというところでございます。

○委員長（秋元美智子君）

はい、川上委員。

○委員（川上 勲君）

OZ1というのは、何の事業をやっているの。じゃ何の事業をやったいうことを確認した。確認してない。それを聞きたい。

○委員長（秋元美智子君）

はい、松本理事。

○総務部理事（松本真由美君）

はい、データ連携基盤をつくっている会社でございます。

○委員長（秋元美智子君）

ちょっと戻りますけど、今後どのように、議会と働きかけて、あるいは町にも、さっき御意見出ましたけどね、引き続きOZ1のほうに請求してほしいということと、国と府にね、働きかけてほしいということでありましたけども。

こういうことちょっと考えられないね。

考えられないってことは、相手にもそれなりの言い分があるのかなあと思ったり、ないのかな、どうなんですかね。

はい、永谷委員。

○委員（永谷幸弘君）

副町長、このOZ1さんね、ほんまにこれ、金を払ってもらえる。

そら結論は出ないと思いますけども、どんな方ですか。

私らまだ話したことないわかりませんけど、このOZ1でデータ基盤云々言うてますけどコンサルちゃいますの。

ペーパーだけで仕事してね、自分とこ例えば従業員は全くなしで、要するに、ダイオキシンでもありましたけど、ああいう人間のね、もんかなという気がしてるんですよ。

ホームページ見たって従業員も何も書いてないというね、そういうところを本当に信用して、お金をくださいというか、当初どおりね、請求できるかどうかなんですけどね。得体の知れない物体なのかわかりませんが、どんな感じですか。私は会ったことないので。副町長会われました。

○委員長（秋元美智子君）

はい、高木副町長。

○副町長（高木 仁君）

私も代表の江川さんという方とお会いしたことはございません。真子さんという方は、定例的にミーティングとかしてますので、その際には何回もお話しさせていただいてます。

データのこういうシステムとか、こういうことに長けてらっしゃる方なのかなという認識はしております。

ただ、その会社がどんな会社なのかということで例えば現場見に行っ、本社ここにあるとかそういう確認をしたことございませんでして、本当の実態っていうんで

すか、中身はどんなものかというのはちょっと今、私自身はちょっと把握できてない状況です。

○委員長（秋元美智子君）

はい、川上委員。

○委員（川上 勲君）

初めOZ1で会社がやね、どんな会社かその年か前年度のね、水揚げが何ぼあって、どないやいう税務の書類おまんがな。それ調べたらすぐわかる。

それ今から出してもらうん違って、OZ1の会社が来たときにそれをせなあかんねん。それが間違いや。そやろ。

○委員長（秋元美智子君）

そういうことは今後十分注意していただくってことで。

ていうことはもう、川上委員の意見はさつきありましたからね。

はい、ほかございますか。

池田委員いかがです。

OZ1のこの1億3,500万円の取組について、どうしましょう。何かお考えございますか。

○委員（池田忠史君）

今、前から何度もお話をいただいてまして、お支払いをいただけるようお願いをしているところだと思いますけれども。会長からの回答としては、払いたいけど払うもんがないという回答で、それ以上でもそれ以下でもない以上、払う金額ができれば、少しずつでも、それこそ払ってもらうのか、何らかの形で対応していただくしかないですよ。

だって、もうそれこそあれですよ、こんなこと言ったらあれですけど、私たちが町に何か依頼とかお願いとかしたってしても、町の予算はこんだけしかないからできませんって言われてるのと一緒で、相手がないって言ってるのにそれ以上どう

しろと言ってもどうしようもないので、もう取りあえずは、同じようにずっと依頼するのは、少しでもできたらしてもらってということぐらいしかないのかなと私は思っています。

○委員長（秋元美智子君）

どういうところを信じていくのかあれですけども、こっちはねたしかにOZ1の口から聞いたわけでも何でもないんだけどね。一応そういうふうな報告はいただいています確かに。

はい、寺脇副委員長。

○副委員長（寺脇直子）

寄附っていう性質上、6,000万円の寄附はもういただいていますけども、そういう寄附するっていう、何ていうんですかね、その性質上、必ず確実に入るっていう保証がないというか、もともといやあ寄附しますけど、やっぱやめますわみたいなことあり得ると思うんですよね。

なのでそういう寄附という性質上、残りの額、本当に2億っていう額を、はっきり言って、2億必ず寄附しますからって、口頭の話だと思うんですけど。その性質上、じゃ、残りの1億3,000万円、必ず寄附してくださいよって言い続けるかどうかとかうことにもなってくると思うんですけど、前の町長は寄附必ず入るって、私たちも聞いたんですけど、まず、寄附という性質上のこととOZ1さんと本当に確実に寄附しますっていう話になってたのかどうかとか、その辺が、何か寄附自体が確実に入るものとして保障されてないから、これ、どういう私もこれ、どうなんかなってちょっと、どうしていったらいいんか、言い続けて寄附してくれるんでしょうかね。

○委員長（秋元美智子君）

私たちは出だしから、前回は話しましたが、寄附を前提とした資料もらっています。

それもちゃんと、前町長から回答もらっています。豊能町は一銭もかからないと、負担かからないと。

しかも予算書のところに寄附金、そこまで上げてきてます。入るんですねって言ったら、入るんです。どうですかって聞いたら、入りますとはっきりおっしゃってる。だから認めたというかね、一銭もかからない。

でもやっぱりこういった事業、豊能町を土台に、実験的にやるんだなというふうな認識でしたし、もしそうでなかったらさっき副議長が言ったように、認められなかったよ、こんな。はっきり言って。

でもそういう形で、これ予算通ってきたわけですよ。

最終的に終わってみたら入らないと。

これはやはり私は正直言って知りたい。

お金がないから払わないなんて、普通の企業はあり得ない。

しかも大阪府のパートナーシップか何かに関わっていて、会社自身の信頼にも関わること平気でしてるっていうところが、どうなってんのかなと。

ですから変な見方、穿った見方するとね、それこそOZ1にしてみたら、OZ1なりに言い分があるのかなと。別途違う約束をしていたと。豊能町が約束守ってないんじゃないかと。

そういうとこまで想像しかねない、私だったら。ですからやっぱりなぜ払えないのかきちっとね、OZ1のほうからも、もう向こうの考えを出していただきたい。そういう意味ではこの場に呼んでね、何でだって聞きたいんだけども、ちょっとそれは先走った話かなということになるので、やっぱりその辺り行政のほうからも取り組んでいただきたいんですけども、いかがですか。

はい、高木副町長。

○副町長（高木 仁君）

この間私のほうから、何でお金入れへんねんということで、払う気はあるけどお金がないねということでちょっと説明してまいりました。

ただ、そう説明してまいりましたが、その背景ですね。どういったことで、払えなくなっているのかということについて、私どもも把握できてないちゅうところもございまして、まだ、今、秋元委員長おっしゃられたことを踏まえましてですね、我々のほうもその辺の実際に払えない、事情っていうんですか、その辺りについてちょっと確認させていただこうかなというふうに思います。

○委員長（秋元美智子君）

ぜひお願いします。

支払わない事情っていうのは、町のほうできちっと対応していただけますか。

どんな形で。呼ぶかなんかしますか。

○副町長（高木 仁君）

一度何か文書か何かで照会させていただこうかなと思います。

○委員長（秋元美智子君）

お願いします。

はい、ではそれとあと、国府に働きかけていただくってこと、あわせてお願いいたします。その形でよろしいですか。

まず、OZ1のほうの考えをきちっといただくってことと、国府のほうにもこのまま引き続き働きかけていただくってことで、一応その形でまとめたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

○委員長（秋元美智子君）

あと、スマートシティの実施計画につきまして、今回も委員のほうからいろいろ意見出ましたし、その前の12日から、ほかの全議員からいろんな声出てますので、とい

うことは非常に感情的なものも含んでますので、行政のほうには、さらなる努力なりしていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

よろしいでしょうか。

これで閉めてよろしいでしょうか。

いいですね。

（「はい」との声あり）

○委員長（秋元美智子君）

はい、わかりました。

これをもってスマートシティ特別委員会を閉会したいと思いますので、よろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

○委員長（秋元美智子君）

はい。どうも皆さん、長時間にわたりましてありがとうございます。

お疲れさまでした。

午後0時36分 閉会

以上、会議の次第を記し、これを証するためここに署名する。

令和 年 月 日署名

豊能町議会 スマートシティ特別委員会

委員長